



第4期宮前区区民会議 第2回会議 次第

～みんなで力を合わせてくらしやすい地域社会をつくろう～



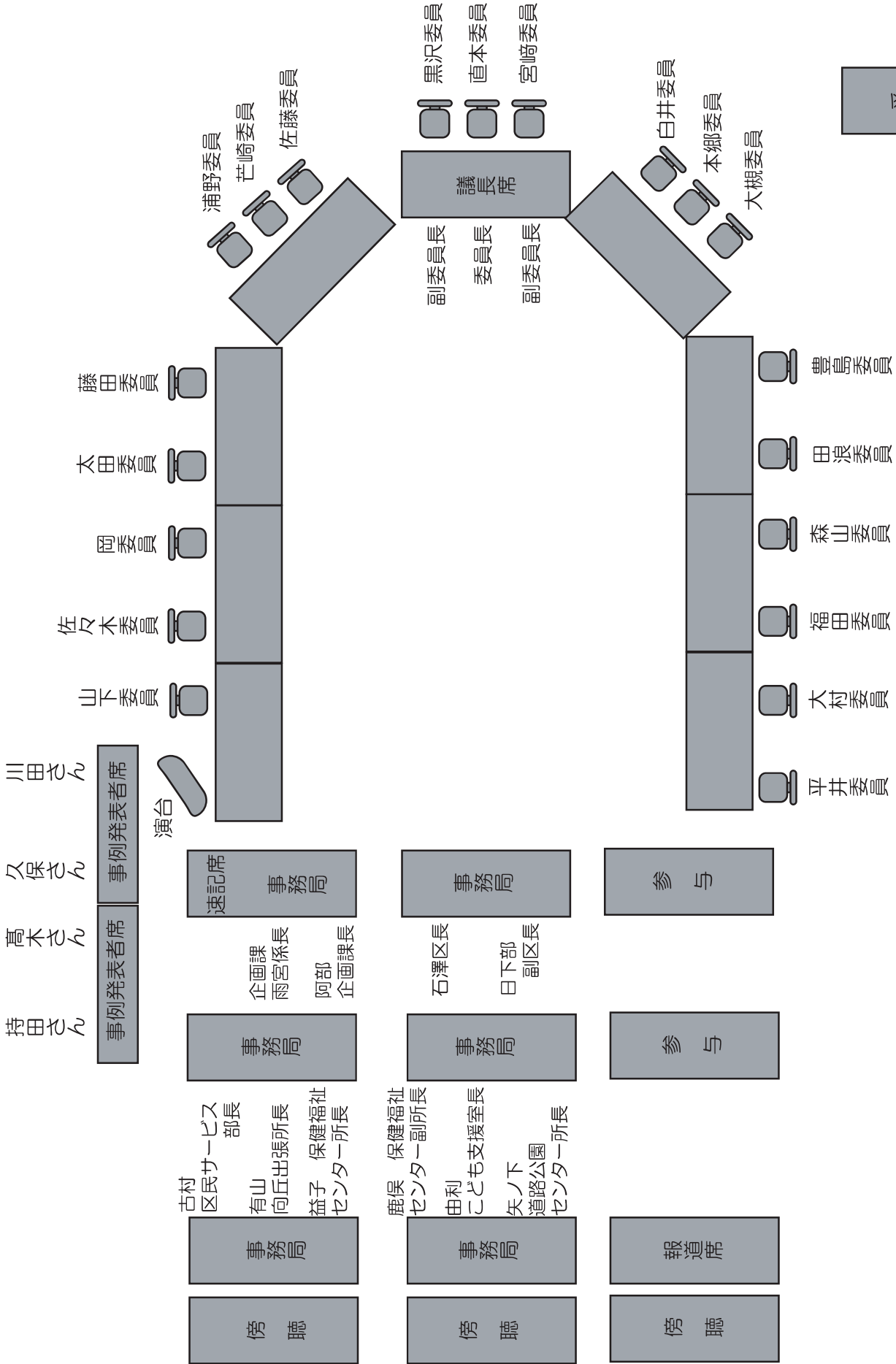
日時：平成24年8月27日(月)18:15～20:00

場所：宮前区役所 4階大会議室

- 1 開会 18:15～18:20
- 2 議事
 - ①審議経過報告について 18:20～18:35 3・4P、別冊
 - ②提案⇒実行までの事例紹介 18:35～19:20
 - ・高齢者の見守り…第1期提案 5ページ
川田 和子さん(鷲ヶ峰西住宅自治会長)
 - ・冒険あそび場…第2期提案 6ページ
久保 浩子さん(宮前区冒険遊び場支援委員会・第2期区民会議委員)
 - ・宮前区のカルタ…第2期提案 7ページ
高木 一弘さん(みやまえカルタ制作実行委員会・第2期区民会議委員)
 - ・情報サポーターズ…第3期提案 8ページ
持田 正美さん(第3期区民会議委員 地参知笑部会)
 - 質疑応答
 - ③部会メンバー決定・部会発足・運営方法・第1回部会の議事内容 19:20～19:45 9・別冊3ページ
 - ④今後のスケジュール確認 19:45～19:50 10ページ
- 【議事終了】
- 3 その他諸連絡 19:50～20:00
 - ・各委員活動紹介
 - ・平成23年度事業評価一覧 11～20ページ
 - ・区民会議フォーラム日程 ……3月20日(祝) 区役所4階大会議室
 - ・区民会議だより22号 別紙カラーA4
 - ・自治基本条例パンフレット 別紙カラーA4

第4期宮前区区民会議 第2回全体会

窓 東急ストア側



区民会議課題の選定経過について

①区民会議事前打合せ会(2012/05/09)

- 1、1期～3期の区民会議取組について紹介
- 2、区民会議委員20名に対し、地域課題把握アンケートの提出依頼

②第1回 宮前区区民会議(2012/05/22)

- 1、地域課題把握アンケートの結果を資料として配付
⇒47個の課題があがった(重複数え 参照別冊 p1-4)
提案者から1分程度概要の説明
- 2、6月に「準備部会」を開催し、課題の絞込みを行い、8月の全体会において専門部会が発足できるようなスケジュールで動くことを確認

③第1回 準備部会 (2012/06/12)

- 1、重複していた課題を統合し、47⇒39の課題となったこと確認
(参照別冊 p5-9)
- 2、39個の課題について、事務局から暫定で2つの分類を提示し、議論。
(参照別冊 p10)
 - ◇「地域での課題解決が困難なもの」、「要望などにとどまってしまうもの」など、11個について区民会議で取り扱わないことを確認
 - ◇残った27個の中から投票を実施。2分類、それぞれ3つずつ投票。
⇒得票5以上の課題、9つが残った(参照別冊 p11)
- 3、7月に第2回準備部会を開催し、残った9つの課題をおおむね2つのテーマにわけることを確認

④第2回 準備部会 (2012/07/10)

- 1、9つの課題に対し、第3期実行計画〔宮前区計画〕に沿って区がどのような取組をしているか情報共有〔参照別冊 p12-15〕。議論重複を避ける。
⇒「地産地消：農」や「花と緑」について、第3期の地参知笑部会で議論されていたが、結果的に情報発信をすることになった経緯を説明。
(農はまちづくり協議会の直売所マップ発行。花と緑は管理運営協議会などの担い手がいて初めて成り立つものだから。など)
⇒農の話は現在取り組みが進められているところ。それを除いて、2つのテーマにわけることとした。〔参照別冊 p 16〕
- 2、8月の全体会までに区民会議審議テーマ希望アンケートを実施し、企画部会にて調整させていただく旨確認



～地域による高齢者の見守り～

地域が主体となった高齢者の見守り促進

(平成18～19年度の第1期区民会議)

【区民会議での取組】

1、課題の選定

- 地域の課題全般（委員による提案、市長への手紙、区づくりプラン関係、都市計画マスタープラン関係など）を吸い上げた結果159の課題があがった。その後、4つの部会を発足。

2、部会発足後の審議

4つの部会のうちの一つ、高齢者福祉部会（4回開催）

3、課題解決策の検討（本事業に関する部分のみ抜粋）

- 区民会議から区へ提案
 - ・ 高齢化が著しい市営住宅で、空き部屋を利用した高齢者の見守り拠点を設置する
 - ・ 見守り役を担うことを条件に所得制限などに関わらず市営住宅に入居できるような制度創設などにより、見守りの人材を確保する。

【第1期区民会議終了。実行段階】

1、課題解決に向けた取組

- 高齢者見守り交流活動を市営鷲ヶ峰西住宅、南平耐火住宅で実施
- この2地区をモデル地区として高齢者等実態調査を実施。地区別意見交換会を開催し、住民同士の見守りや助け合いが大切という認識があること、また、集まれる場所が必要ということがわかった
- モデル地区の意向に応じた活動への支援を行いながら、地域主体の見守りへ移行していく

2、今後の方向性

- モデル事業の充実及び他地域への展開
- 地区ごとで見守り実施団体、行政等をメンバーとして会議を開催し、団体相互の連携、高齢者の見守り推進を図る



～「冒険あそび場」をひろめよう！～

冒険あそび場活動支援 (平成20～21年度の第2期区民会議)

【区民会議での取組】

1、課題の選定

地域コミュニティ活性化のため、地域課題10分野(①高齢者、②防災、③緑、④公園、⑤子育て、⑥青少年、⑦シティーセールス、⑧文化・観光、⑨地域情報、⑩産業)から①～⑥を包含する「課題解決の場」として、公園を捉え、テーマを決定。

2、部会発足

「公園・地域づくり部会」発足(13回開催)

3、課題解決策の検討(本事業に関する部分のみ抜粋)

- 次世代育成の場の確保・地域コミュニティの活性化のため、公園を通じてそれらを解決する手段である、「冒険あそび場」を広めていくことを区長に提案
- 平成22年度から部会メンバーや既存活動団体、公募により「宮前区冒険あそび場支援検討委員会」を立ち上げ、冒険遊び場のルールや支援メニューについて議論

【第2期区民会議終了。実行段階】

1、課題解決に向けた取組(既存団体との連携・支援検討委員会の設置)

- 平成22年11月に支援検討委員会によるモデル事業の実施
 - 平成23年3月に検討の経過をまとめた報告書を区長に提出
 - 同4月に「宮前区冒険遊び場活動支援要綱」を制定
 - 同9月に「宮前区冒険遊び場シンポジウム」を開催、その後「宮前区冒険遊び場活動支援委員会」を立ち上げ、以降活動を広めるために支援を行っている
- ◇24年度現在、活動団体として「子どもの遊び場を考える会ポレポレ」、「つちはしプレーパーク」、「親子で一緒に外遊びの会」の3団体が登録
- ◇区所管：こども支援室・企画課・道路公園センター・地域振興課・生涯学習支援課の5課が連携し、支援委員会と協働で事業推進

2、今後の方向性

- 活動団体が相互交流や情報交換を行うためのネットワークの立ち上げ
- 新たな「場」づくり、活動の担い手の発掘

～宮前区のカルタをつくろう～

みやまえカルタ制作（平成 20～21 年度の第 2 期区民会議）

【区民会議での取組】

1、課題の選定

地域コミュニティ活性化のため、地域課題 10 分野(①高齢者、②防災、③緑、④公園、⑤子育て、⑥青少年、⑦シティーセールス、⑧文化・観光、⑨地域情報、⑩産業) から⑦～⑩を包含する「宮前区らしさ」として、地域の宝（自然、歴史文化、産業、活動、まち・施設）を基に「宮前区の顔づくり」をして行くことに決定。

2、部会の設置

「宮前区の宝さがし～ときめき再発見～」部会発足（12 回開催）

3、課題解決策の検討

- 「宮前区の宝さがし」アンケート等調査・審議結果を基に、地域の宝の PR と地域コミュニティ活性化のため、「みやまえカルタの制作」を区長へ提案（平成 22 年 3 月）。

- 区長への提案

宮前第 1 地区社会福祉協議会による「野川カルタ」を参考に、
・平成 23 年「地域のカルタ」として中学校区（8 地区）ごとに制作
・平成 24 年区制 30 周年記念として地域のカルタから選抜した「区
のカルタ」を制作



【第 2 期区民会議終了。実行段階】

1、課題解決に向けた取組（実行委員会の発足）

- 平成 22 年 4 月から部会のメンバーを中心に実行委員会を発足。
- 平成 23 年 12 月に「地域のカルタ」が完成し、以降カルタを使った宮前区民祭や小学校でのカルタ大会などイベント等を随時実施。

◇区所管：企画課・地域振興課

2、今後の方向性

- 平成 24 年 10 月、区誕生 30 周年記念
「区のカルタ」完成予定
- 区民が地域を知り、地域への愛着を深めてもらう
ツールとして活用し、定着を図る。





～コミュニティへの参加を促す雑誌と情報戦略～

情報サポーターズ養成講座の開講など（平成22～23年度の第3期区民会議）

【区民会議での取組】

1、課題の選定

- 第1～2期の取組と重複しないもの
- 「参加と協働」にそぐわないものを除外

という視点から区民会議で取り扱う課題について検討。農地がある地域特性を活かしながら、地産地消を通じた地域づくりを行うことに決定。

2、部会の設置

①【地産地消部会】⇒②【地産値紹部会】⇒③【地参知笑部会】に名称変更

①農産物等の紹介から、②地域の各種産業の紹介、③地域情報の発信を通じて地域コミュニティを醸成する、と審議が進められた。（11回開催）

3、課題解決策の検討

- 区の現状を把握

〔 転入世帯数が多い、地域で孤立する恐れもある
東京・横浜へのアクセスの良さから区内に目が行かない
⇒結果として地域コミュニティの希薄化につながる〕

- 以下2つの視点から区長へ提案

①地域に参加したいと思えるような広報の必要性

⇒転入者向けの雑誌を市民目線で作成

②地域の情報を効果的に発信し、幅広い層へのアプローチを行うこ

とで、地域参加を促す

⇒紙媒体以外の情報発信についても検討

【第3期区民会議終了。実行段階】

1、課題解決に向けた取組（情報サポーターズ養成講座の開講）

- 平成24年5月から公募により講座を開催

情報サポーターズとして組織し、市民による情報発信を担う団体を発足

2、今後の方向性

- 平成24年12月頃……地域参加を促す雑誌の発刊
- 情報サポーターズによるインターネットを活用した情報発信を進める

区民会議審議テーマ希望アンケート 結果

No.	企画	環境と人	地域世代交流	役職	氏名	お住まい	団体名等	新任 再任
1			●		ひらい しょうこ 平井 賞子	宮崎5丁目	宮前区安全・安心まちづくり推進協議会	再任
2		●			おおむら こうへい 大村 康平	宮崎6丁目	宮前区社会福祉協議会	再任
3		●			ふくだ よしのぶ 福田 美巨	五所塚1丁目	宮前区老人クラブ連合会	新任
4		●			もりやま いくお 森山 征男	有馬3丁目	宮前区スポーツ推進委員会	新任
5			●		たなみ ゆきこ 田浪 由紀子	有馬3丁目	宮前区子ども・子育てネットワーク会議	新任
6			●		てしま このみ 豊島 このみ	有馬7丁目	宮前区民生委員・児童委員協議会	再任
7			●		おおつき みきお 大槻 幹雄	菅生3丁目	宮前区地域教育会議	新任
8		●			ほんごう かずお 本郷 一雄	菅生3丁目	グリーンフォーラム 21 みやまえ世話人会	新任
9	●		●	副委員長	みやざき たかし 宮崎 孝	馬絹	宮前区商店街連合会	新任
10		●			しらい しづこ 白井 志津子	土橋7丁目	宮前区文化協会	新任
11			●		さとう りんきち 佐藤 林吉	水沢3丁目	宮前区全町内・自治会連合会（向丘地区）	新任
12		●			のげさき やえこ 芒崎 八重子	梶ヶ谷	宮前区全町内・自治会連合会（宮前地区）	新任
13		●			うらの じゅり 浦野 珠里	平4丁目	フロントタウンさぎぬま	再任
14		●			ふじた しんご 藤田 信吾	けやき平1丁目	宮前区まちづくり協議会	再任
15			●		おおた きみこ 太田 公子	宮崎	公募	新任
16			●		おか きいちろう 岡 毅一郎	土橋7丁目	公募	新任
17		●			ささき りょうじ 佐々木 良司	土橋3丁目	公募	新任
18	●	●		副委員長	くろさわ かずゆき 黒沢 一之	平3丁目	区長推薦 宮前区全町内・自治会連合会顧問	新任
19			●		やました ひろし 山下 浩	神木1丁目	区長推薦 第3期区民会議 委員長	再任
20	●			委員長	なおもと たかこ 直本 享子	宮前平3丁目	区長推薦 第3期区民会議 副委員長	再任

10 9

※部会名・部会長は未定

第4期宮前区区民会議スケジュール 【2012/08/27】

		平成24年度										
		課題出しと 審議テーマ選び					現状の洗い出しや先進事例等のリサーチ					
進 行 目 安	5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月											
	事前 打 合 せ 会	第1回全体会 ・委員の興味関心 ・課題出し ・審議テーマ選び										
第1回 全 体 会	第2回全体会 ・部会発足 ・部会による具 体的提案に向け た審議開始 ・部会長決定											
第2回 全 体 会	第3回全体会 ・解決すべき課題 の洗い出し ・先進事例のリサ ーチ等											
第3回 全 体 会	第4回全体会 ・フォーラム の開催準備 ・各部会中間 報告まとめ											
企 画 部 会	五月二十二日	第一回 準備部会	第二回 準備部会	① 八月十日	②	③				④		⑤
環 境 と 人 (仮)					①	②			③	④		⑤
地 域 交 流 (仮)		六月十二日	七月十日			①	②			③	④	⑤
												区 民 会 議 フ ォ ー ム 三 月 二 十 日



地域課題把握アンケートを反映

平成23年度 宮前区地域課題対応事業評価一覧表

N O	事業名	決算額 (円)	事業の概要	23年度の取組	成果	24年度以降の事業の方向性	担当課
1 安全・安心まちづくり事業							
1	安全安心まちづくり推進事業	862,449	誰もが安全に安心して暮らせる「まち」を形成するために、安全安心に関わる様々な分野の団体が加盟している「宮前区安全安心まちづくり推進協議会」を軸として、区民、地域団体、事業者、行政機関等の連携・協働により、防犯、交通安全、防災などの総合的な安全安心のまちづくりを推進し、暮らしやすい環境づくりに取り組んでいく。	様々な機会をとりえて、情報を提供することにより町内会・自治会に限らず、様々な団体に「パトロール活動」の活用を促し、地域防犯パトロール活動を推進していく。	<ul style="list-style-type: none"> ●新たに30の町内会・自治会等のパトロール団体に「パトロール活動」の活用を図った。 ●区境における高津区との合同防犯パトロールは、日曜等の関係で、4月開催にすれど、ことごとくなったため、宮前区の町内会・自治会単独での開催とした。 	地域のパトロール活動は活発になり、防犯に対する意識は高くなっている。しかしながら自ら自転車盗難、ひったくり等の軽微な犯罪は、なくなることはない。今後も警察署と連携を図りながら、ベスト等のパトロール用品の提供を行い、地域のパトロール活動に対する支援を続けていく。	地域振興課
2	子ども安全・安心見守り事業 (区民会議課題)	641,034	子どもたちの登下校時における安全などを地域社会全体で確保するため、区内の各学校とその保護者、地域の関係団体並びに区民、事業者、警察及び行政が一体となり、次のことを実施する。 1. 子ども安全・安心協議会、連絡会等を開催し、年間の活動方針の決定や、情報・意見交換 2. 「宮前区子ども安全・安心通信」年2回発行し、区内小学校、町内会等に配布し、広報 3. 各小学校区子ども安全・安心協議会が実施する「地域安全マップづくり」への支援	<ul style="list-style-type: none"> ●宮前区子ども安全・安心協議会の総会の開催(活動報告・活動計画) ●情報交換等の連絡会の開催 ・子ども安全・安心通信の発行(年2回) ●各学校での安全・安心の取り組みの報告会の開催(各小学校毎) 	<ul style="list-style-type: none"> ●3・11の大震災を受けて、子ども安全・安心に関して、防犯だけでなく防災の関心が非常に高まっている。連絡会議では、防犯に並び防災面での各小学校区での取組が発表され、有意義な情報交換が行われてきた。また、子ども安全・安心を地域ぐるみで守るという目的を再確認することができた。 ●地域で防犯パトロール活動などに携わる方々について、子ども安全・安心通信で紹介することで、多くの保護者や地域の人に、その地道な活動の様子が伝えていくことができた。 	今後子ども安全・安心協議会を通じて、各小学校区や地域の取組の情報交換・共有を行い、各団体の活動の活性化を図っていく。また、協議会の活動の様子や地域での取り組みの様子を、通信で広報することにより、子ども安全や地域の取り組みに関する保護者や地域住民の意識を引き続き喚起していく。	子ども支援室
3	防災意識普及啓発事業 (区民会議課題)	2,100,525	●各種の防災意識普及啓発活動(防災ニュースの発行、防災フェアの実施等)を行い、区民一人一人に防災に関する知識を根付かせことにより、防災意識の向上を図る。 ●地域で防災活動の中心となる防災推進員の養成を目的とした「防災推進員養成研修」及び「養成研修を受講した防災推進員のさらなる知識向上を目的とした「防災推進員フォロー研修」を実施することにより、地域の防災力向上に繋げていく。	各事業実施の際には学校、関係団体等により多くの団体に対して、広報を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ●防災ニュースを4半期に1回、年4回、まちづくり協議会防災部会と協働で発行することができた。 ●防災フェアにおいては、防災講座、展示実演に加え、南三陸町から語り部の方を迎えていくことで、防災意識の普及啓発、及び、災害時の心構えを普及啓発することができた。 ●防災推進員養成研修を行い、新たに38名を宮前区防災推進員として登録した。 ●防災推進員フォロー研修を行うことで、防災推進員の知識を深め、地域防災力の向上を図ることができた。 	いつ起きるかわからない災害に備えるために、各事業は継続実施していかねばならない。また、平成24年度は宮前区総合防災訓練も予定されているため、防災ニュース、訓練事業とも関連させていくことで、防災意識の普及啓発、及び、地域防災力の更なる向上を図ることが必要である。	地域振興課
2 地域福祉・健康づくり事業							
4	健康づくり支援事業	751,210	●健康づくりの取り組み方、健康づくり団体の紹介等を載せた情報紙を発行し健康への関心を高め健康づくりの実践に取り組み人を増やす。 ●公園体操マップの修正、増刷と宮前区オリジナルストレッチ体操「風」でのリーフレットを増刷し、これらを活用し公園体操を区民に広げ「風」を普及する。	健康づくり情報紙は健康づくり推進会議で検討を行い、区民と協働でわかりやすく取り入れられやすい内容を入れて作成する。また、公園体操マップと風の中でのリーフレットについても区民と連携をとりながら作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ●健康づくり情報紙「健やかライフ」宮前区健康づくり推進会議4回、作業部会3回行う中で検討を重ね、健康的な生活習慣の実践を促す内容で1万部作成し区民に配布した。どの世代の方にも共通する健康づくりを紹介したところ、わかりやすいと好評を得ている。 ●公園体操マップを修正し3千部増刷、宮前区オリジナル体操「風」の中でリーフレットを5千部増刷し区民に配布し地域に広めている。 	「宮前区民みんなで実践、健康習慣」の普及を更に推進していくために、健康づくり情報紙を健康づくり推進会議で対象や内容を検討し、継続して作成し区民に配布していく予定である。	地域保健福祉課
	地域が主体となった高齢者の見守り促進事業(区民会議課題)	2,206,125	2箇所における高齢者見守り活動等区民の自主的な取組を支援し、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくための仕組みづくりを促進する。	2箇所の公営住宅をモデル地区として選定し、取組を支援。モデル地区を対象にアンケート実施、見守り活動における課題を抽出、また、アンケートの結果を踏まえワーキングショップを開催、更なる課題抽出や交流を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> ●モデル地区である2箇所の公営住宅636世帯を対象にアンケートを実施し、有効回答率67.8%を得た。主な調査結果として、地域が主体となった見守り活動合いを、行っていることなどが重要であるとの回答が出た。 ●アンケートの結果を踏まえワーキングショップを開催し、団地住民、民生委員等全部で63名の参加があった。高齢者の見守り活動や交流活動の事例が積極的に紹介され、地域での支え合いの必要性が認識された。 ●モデル地区に24年度の取組について説明し、同意を得た。 	モデル地区2箇所の住民ニーズや実施団体の意向に応じた活動への支援を行い、具体的には支援メニュー①交流活動を通じた見守り活動②見守り活動支援③見守り人材の育成をモデル地区2箇所に提示し、支援していく。	地域保健福祉課

平成23年度 宮前区地域課題対応事業評価一覧表

NO	事業名	決算額 (円)	事業の概要	23年度の取組	成果	24年度以降の事業の方向性	担当課
3 総合的な子ども支援事業							
5	子育て情報発信事業 (区民会議課題)	1,336,972	①から⑤により、区民が必要とする情報の提供をおこなう。 ①子育て情報誌「みやまえ子育てガイド」と「ことこ」の作成と配布 ②「みやまえ子育てガイド」と「ことこ」の補完情報誌(かわら版)の発行 ③宮前区子ども子育てホームページと「ことこ」ホームページの管理運営 ④子育て情報掲示板、や情報提供コーナーでの情報提供と管理 ⑤子ども支援室のリーフレットの配布	●「みやまえ子育てガイド」と「ことこ」を関係機関からの情報提供や、各制度の改正などによる情報の修正を行い、増刷する。 ●子育て支援連絡会議の中でかわら版の内容について検討し発行、配布する。 ●ホームページ掲載、掲示板、情報コーナー等の管理運営を行い、正しい必要な情報の提供を行う。	子育て世代の転入者や母子手帳の受給者をはじめ一般の子育て世帯などに対し、「ことこ」・「子育てガイド」の発行及び「ホームページ」の閲覧、さらに子育て情報掲示板や情報提供コーナー等に広く子育て情報を提供したことにより、宮前区内における子育て世帯の孤立や育児不安を軽減することに幅広く貢献できた。	平成24年度は、子育て情報誌の発行に際して、最新情報が見られるようホームページでの更新、回数を増やしていくことが課題である。また、平成25年度には、「宮前区子育てガイド」と「ことこ」の大幅な見直しと改訂作業を行う(当初は平成24年度に予定していたが延期になった)ため、平成24年度未までに「ことこ」の改訂委員会を設置する準備をしておく必要がある。	子ども支援室
6	親と子の子育て応援セミナー (区民会議課題)	497,409	●親と子の子育て応援セミナー(連続育児講座) 宮前区内で在宅で子育て中の0～1歳児を持つ親子を対象に、8回連続講座を地域子育て支援センターささぎぬまで2回実施する。 ●親と子の子育て応援セミナー(オープン講座) 今までのセミナー受講者が中心となり、広く子育て中の区民に向けた講座を企画、開催する。	●公立保育園、地域子育てでセンター、先輩ママ、庁内関係部署と連携、協力し、子育てに関する知識・技術の専門性を活かした連続講座(各8回)を2回実施し、参加者の育児力の向上に貢献する。 ●区内の子育てで中々の区民を対象に地域子育て支援センターを会場にして、土曜日にオープン講座を実施する。	●連続講座を受けることで育児力の向上につながったり、グループワークを通して子育ての悩みを共有することによって、育児への不安や孤立感が軽減できた。 ●地域の子育てでグループ等への参加によって、親同士の交流が図られ、ボランティア活動や子育てでグループの担い手になったこと、父親の育児参加を土曜日に行ったことで、父親の育児参加につながった。	●7回の連続講座の内容を検討し、他機関との連携を取った内容を加えて充実させる。 ●OG会はさらなる子育て力のフォローアップと区民を対象にした企画実施を目的に行う。 ●オープンセミナーは土曜日に開催すること、父親の育児参加を促したり、たくさんの方が参加できるように、子育て支援センターの土曜開所と合わせておこなう。	子ども支援室
7	子ども支援ネットワーク事業 (区民会議課題)	146,164	区における子育てで地域社会全体で支えるため、地域の関係者があつまり、様々な子どもに関する情報交換、課題の共有、支援の取り組みなどを行い、ネットワークを強化する。	1.子ども支援に係るネットワーク事業 ①関係機関等の代表者による子ども、子育てネットワーク会議の開催(年2回)②実務者による子育て支援関係者連絡会(隔月)転入者向けイベントの開催 活動団体交流会の開催 2. 要保護、要支援児童等ネットワーク事業 ①区内の関係機関、施設、団体等の実務者を対象に会議を開催し、連携の強化、情報交換、学習等を行う。(年3回) 3. 幼・保・小連携事業 ①小学校へのスチューデントな移行のため、育ちに不安を持つ保護者の相談会の開催 ②相互理解を深めるために、保育園実習や小学校訪問の実施 ③関係担当者等の連絡会の実施	1・2・3の取り組みにより区内の関係機関の連携が強化され、情報の交換、共有、協力体制の継続が行われた。	子ども達が抱えている問題は多様化し、1つの機関で解決するには難しく、関係する機関が、情報交換、課題の共有を行い、連携して、支援する必要がある。特に深刻化している虐待など、要保護児童等についても、行政、関係機関・地域が連携して、早期発見・早期支援を行い、子どもの生命・人権を守るため連携を強化していく。	子ども支援室
8	子ども包括支援事業	3,489,153	「子どもサポーター南野川」を地域の拠点とし、子ども・子育て支援ニーズにきめ細やかに対応していく。 1. 子育て支援サロンやイベントの実施 ①子育てサロン ②いっしょに遊ぼう ③いっしょに作る ④季節のイベントの開催 2. フリースペースの提供 3. 子ども子育て相談の実施 4. 子育てで自主グループなどへの貸しスペースの提供 5. 子ども・子育て情報の提供 6. 不登校、ひきこもり等の子どもへの居場所の提供、生活、学習支援 7. 子ども・子育て支援の講座・イベントの開催	●委託先運営会議、教育情報交換会を行いながら「子どもサポーター南野川」の運営に取組む。 ●学齢期の子どもや保護者を対象に、抱えている課題などを把握し、必要な学習会、研修会を開催する。	●子育て支援では人形劇、クリスマスなどのイベントも盛況で利用者も増えている。地域ボランティア等の協力も得られ、拠点として確実に根付いてきており、つながりが広がっている。 ●課題のある子どもの支援は利用者が増え、加し必要な支援が行われた。特に不登校児童の学校復学率が高いことなどから、支援方法等が注目され、教育委員会等との連携の強化が行われた。	●課題を持つ子どもたちの支援は、問題が多岐にわたる、複雑、深刻なケースが多く対応には専門的知識やスキルを持ったスタッフが必須である。 ●利用者が増加していることや、教育分野に精通したスタッフの確保が必須のため、子算の拡充が必要である。 ●学習支援が学校への復学や、自尊心の育成に効果をおいているため、今後は市の課題でもあられる生活保護世帯の子ども自立支援への対応として対象者をひろげていく	子ども支援室

平成23年度 宮前区地域課題対応事業評価一覧表

NO	事業名	決算額 (円)	事業の概要	23年度の取組	成果	24年度以降の事業の方向性	担当課
9	地域の子ども・子育て支援拠点の整備事業	607,625	1. 地域ニーズにあわせ、上りきめの細かい支援を行うため、区内地域の特性や交通の利便性を考慮し①普生・向丘地域に出張所②有馬・野川地域にこどもサポート南野川をこども・子育て支援の拠点として整備する。 2. 区役所、出張所のレイアウト変更に合わせて、①安全安心なキッズコーナーの設置、②授乳室の設置、③個別の相談ブースの設置、④気楽に情報交換が行える場の提供など、子育てにやさしい庁舎環境の整備を行う。	●連絡調整会議を行い、スムーズな支援体制の移動を行う。 ●子育てにやさしい庁舎環境の整備や子育て支援の拠点について、関係機関と意見交換を行う会議を行う。	●区役所及び向丘出張所では、来所した子どもや安心に配慮したキッズコーナーの設置や子ども情報コーナーの拡充等を実施し、子どもでも来所しやすく必要な情報をタイムリーに周知できる環境を整えられた。 ●向丘地区では、アンケート調査の結果を基に子育て世代の仲間づくりを推進するため、社会福祉協議会や民生・児童委員、宮前図書館等に働きかけ、向丘出張所を拠点とした親子の会を立ち上げることになった。	●平成24年度中に、社会福祉協議会や民生・児童委員、宮前図書館等と連携しながら向丘出張所を拠点とした親子の会を開始する。 ●会の企画・運営の主体は地域住民であるが、会場の確保及びその他必要時は相談役として活動支援を行う。	こども支援室
4 環境まちづくり事業							
10	花と緑のあふれる住みよいまちづくり事業	972,902	●市の北の玄関口としての東名川崎インターチェンジ周辺の景観整備を行い、川崎のイメージアップを図る。 ●市が指定した地域緑化推進地区について、地域緑化推進を支援する。 ●宮前区まちづくり協議会を通じて、区内の公園・公有地内にある花壇を自主管理している緑化活動団体に花苗などを提供するワーク網を構築し、緑化活動団体の活動を活性化させるとともに、区内の緑化推進と区民の緑化意識の高揚を図る。	①年2回(春・秋)、区内の地域緑化推進地区へ花苗などを提供する。 ②年1回(秋頃)、区内の緑化活動団体に花苗や用土などを提供する。	●緑化推進地区として、東名川崎IC前花壇を支援。春・秋各1回。 ●区内で活動する緑化活動団体22団体へ花苗の支援を実施。申請数が予算を大幅に超過したため、各団体への株数を調整し、用土の支援はせず、花苗のみとした。 ●財団法人川崎市公園緑地協会と連携し、花壇についての相談会を開催するなど、物的支援にとどめず長期的な緑化へつなげる取組も行った。	川崎市公園緑地協会、道路公園センターや緑化活動団体との調整をはかりながら、今後の方針について検証をする。	地域振興課
11	ecoエコプロジェクト推進事業	356,271	●区民の地球温暖化やリサイクルに対する意識を高め、節電などの省エネ行動や、3Rの実践行動などにつなげる。 ●区役所庁舎で屋上緑化を行うことで、緑化推進と区民の環境問題への意識高揚につなげる。	環境問題に関するセミナーやイベントの開催、また地域に根ざしたイベント等との連携による啓発活動	●月25日の映画上映会と映画セミナーでは、定員を超える多くの応募があり、環境問題に対する区民の関心の高さが窺えた。 ●セミナーやバスツアーでは、参加者からも高評価を得て、啓発の促進ができた。 ●屋上緑化については、庁舎屋上への太陽光パネル設置に伴う工事補償の関係で、実施することができなかった。	区民による実践的な活動に繋がられるよう、区民が主体的に提案していただけるよう、区民が主体的に提案していただけるよう、また、区民の意見なども取り入れながら、環境問題に関するイベントの開催などを行い、より実践行動へと促せるような意識の啓発を図る。	企画課
12	公園の魅力アップ事業 (区民会議課題)	212,000	●公園に情報揭示板を設置し、その公園で開催されるイベントの情報、その公園で活動している団体の活動情報、公園管理運営協議会からのお知らせ等を掲示することで、公園の魅力やコミュニティ的価値を発信し、公園の利用促進と地域コミュニティの活性化を目指すことが区民会議から提案された。 ●揭示板の設置にあたっては公園管理運営協議会と管理協定を締結し、揭示板の設置は区が、掲示する情報の募集と更新、揭示板の維持管理は地域が行うものとする。	●上半期は、モデル実施を行った3公園を対象に、情報揭示板の活用状況、情報発信効果、維持管理の方法等について評価・検証を行う。 ●下半期は、本格実施のための要綱を策定し、設置希望団体の申請受付、設置する公園の選定、団体との管理協定の締結、揭示板の設置を進める。	●昨年度モデル実施を行った3公園を対象に評価・検証を行ったところ、公園によって活用状況にバラツキが出て、十分な情報発信効果が確認できなかった。 ●そのため、現在の方法のまま本格実施に向けた要綱を策定することは取り止め、モデル敷を牌や詳細項目を精査した上で、再度評価・検証を行うこととした。既設の3公園とはモデル実施への協力の覚書を延長し、新設の2公園とは新たに覚書を締結して公園情報揭示板を設置した。	提示板を使った情報発信が、公園の利用促進や地域コミュニティの活性化という目的に即して効果的・効果的な手法であるかを評価・検証した上で、次年度以降の取組の方向性や具体的な手法を検討する。	企画課

平成23年度 宮前区地域課題対応事業評価一覧表

N O	事業名	決算額 (円)	事業の概要	23年度の取組	成果	24年度以降の事業の方向性	担当課
5 地域資源活用事業							
13	みやまえこぼれコンサート 開催事業	1,612,800	<ul style="list-style-type: none"> 区役所を訪れた方々に、上質の音楽を通じつつあるお祝い時間を過ごすこと、区民にとって身近で親しみやすい区役所の実現をめざす。 1993年10月から毎月区役所2階ロビーでコンサートを開催。来場者数は毎回200人前後、毎回レベルの高い演奏を聴きながら音楽を聴いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 来場者や出演者の安全確保、星窓業務に影響がないよう音量に配慮したジャンル空間を最大限有効に活用するための企画運営に努める。 イベント会場でのつわを配り、会場の冷房設定温度をあげることなどで節電に取り組む方法を検討していく。 被災地支援を念頭に置いて開催方法を実行委員会とともに考え実施する。 ねふたと縁のある荒馬踊りのプロである同時期にワークショップを行うなどして団体のスキルアップをねらっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 宮前区は他区と比べて音楽事業が少なかったため、定期的に開催する貴重な音楽を提供することができた。 ハフエティに富んだ出演者を配しているため、毎回コンサートを楽しみに来場する区民も多数おり、定期開催のコンサートとして定着している。 庁舎内で開催することにより、低予算でレベルの高い出演者による良質なコンサート提供が実現している。 市政だより、区ホームページ、庁舎内でポスター掲示など効果的な広報を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎回ハフエティに富んだ構成でコンサートを開催できている。来年度の区制30周年を機に、区役所2階ロビー以外でも演奏を聞ける場と機会を創出する必要がある。 	地域振興課
14	みやまえこぼれコンサート 開催事業	1,689,898	<ul style="list-style-type: none"> 太鼓を通じて、宮前区の誇る文化が保存・伝承されることを再認識するとともに、演奏者・来場者の交流や和太鼓グループ間の交流を図ることを目的に、区内の和太鼓グループやゲスト等による和太鼓の演奏を行う。 平成11年度から、地域の伝統文化に根ざしたイベントとして開催されており、夏のイベントとして地域に定着しています。他の区では見られない、宮前区ならではの事業となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き有料化(500円)を実施する。 有料化を実施して過去2回は公演前に完売したことで、入場料を引き上げることについては完全自主運営が可能となる。 市民館自主企画事業から派生した事業でもあり、人気の高い宮前区に自主運営を視野に入れた方策を検討する。 2012年はナポレオンのロシア遠征(1812年)から200年目となるので、チャイコフスキー序曲「1812年」を演奏曲目として検討するなど、その年にふさわしい演奏曲目を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 開演テーマを「届け、太鼓に込めた復興への願い」とし、実行委員・参加団体も被災地支援を念頭に置いて企画演出、演奏を行った。 町内前回の倍近くの枚数を作成し、ほぼ全に配布。夏の節電対策に貢献した。 赤十字奉仕団による義援金を集めることができた。 ゲストに民族歌舞団荒馬踊りを迎え、荒馬踊りのワークショップの成果発表として、宮崎中学校美術部の生徒に絵を張り替えてもらった「宮前ねぶた」とのコラボレーションを行い、団体のスキルアップと共に地域とのつながりを生むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 実行委員会の熟練度が高くなり、自主的な企画・運営を行うことができる環境が年々整ってきている。 出演団体同士のネットワークが活性化し、区の音楽事業の大きな特徴となっている。 平成25年度には節目となる第15回を迎えるにつれ、これまでの経験を活かして相応しい企画を検討していく。 	地域振興課
15	みやまえこぼれコンサート 開催事業	787,288	<ul style="list-style-type: none"> 宮前区を中心に音楽活動をしている個人や団体が主体となって、相互の交流と協力コンサートを開催し、音楽を身近に感じてもらい、芸術への意識の向上を図るために実施。 公募した出演者により、毎年1月にクラシック音楽主体のコンサートを開催。 演奏形態としては出演者の単独演奏ではなく「コラボレーション」による大きな特徴としている。 毎年定員を大幅に超える入場希望があり、抽選で入場者を決定していたが、継続して希望しても当選しないという区民の声を傾け、平成21年度から有料化(500円)を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き有料化(500円)を実施する。 有料化を実施して過去2回は公演前に完売したことで、入場料を引き上げることについては完全自主運営が可能となる。 市民館自主企画事業から派生した事業でもあり、人気の高い宮前区に自主運営を視野に入れた方策を検討する。 2012年はナポレオンのロシア遠征(1812年)から200年目となるので、チャイコフスキー序曲「1812年」を演奏曲目として検討するなど、その年にふさわしい演奏曲目を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> プログラムのオペラや交響曲など多彩で、入場者も安定しており、チケットも毎回完売するなど、人気のあるコンサートである。 来場者アンケートでも公表を得ており、内容については、回答者の71%が「とても良い」、15.1%が「まあ良い」と大多数が良かったとの評価しており、入場料については、回答者の54.6%と過半数から安いという評価を得ている。 	<ul style="list-style-type: none"> 当日の運営には実行委員のほかボランティアが必要であったが、実行委員会で出演者の決定、プログラム編成、楽譜アレンジが行える体制が整っている状況であり事業としても成熟して、自主運営が可能となっている。 実行委員は市の事業の枠組みが窮屈と感じて、自分達で自由に事業を実施したいとの要望もあかっていたことから、市の事業としては終了し、自主運営を図る。 	地域振興課
16	しあわせを呼ぶコンサート 開催事業	2,704,920	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を通じて隣事と隣事との相互理解と交流を深めるとともに、障害者の社会参加の意識を高めることを目的としてコンサートを実施する。 第1部は宮前区内の障害者施設・作業所に通所する方々が、ベートーヴェンの第九を原語で歌いほか、数曲を合唱する。 第2部はプロの演奏家によるコンサートを、ロビーにおいて施設等が製作したパンや足拭きマット等の展示や販売を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 7月以降、各施設・作業所での練習に指導者のほかボランティアで賛助出演する方々も参加していただき、コンサートの準備段階から音楽を通して、障害のある方とない方の交流もできた。 出演者は、日頃の活動や成果を発表することができ、充実感や達成感を得ることができた。 来場者アンケートによると、出演者の熟練度や元氣と感動を与え、障害者に対する理解を深めるコンサートに繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 障害のある方が多くの区民にふれあい、日ごろの活動を発表する場として、広く周知されるようになっていく。 障害のある方の社会参加と自立を促すために、今後も障害者福祉施設・作業所等連絡会との連携、協力を進め、相互理解と交流の場として発展させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 障害のある方が多くの区民にふれあい、日ごろの活動を発表する場として、広く周知されるようになっていく。 障害のある方の社会参加と自立を促すために、今後も障害者福祉施設・作業所等連絡会との連携、協力を進め、相互理解と交流の場として発展させていく。 	地域振興課

平成23年度 宮前区地域課題対応事業評価一覧表

No	事業名	決算額 (円)	事業の概要	23年度の取組	成果	24年度以降の事業の方向性	担当課
17	宮前区民祭記念イベント 実施事業	315,000	<ul style="list-style-type: none"> ●宮前区民祭は、「小さな手 大きな手」みんなで築く宮前区の手づくりで開催される。例年20万人を超える人々が来場している。 ●平成23年度には第30回を、平成24年度には区制30周年をそれぞれ迎えることから、節目となる区民祭において記念イベントを開催することで宮前区を元気あふれるふたつとして発展させることに区民の友情と連帯を育む一助とする。 ●宮前区の地域の魅力を区や他の地域の住民に紹介し、より宮前区に興味を持ってもらうことで、多様な人材の参画を促すとともに、宮前区を訪れる人が増えることで地域経済の活性化にも寄与することを目的とする事業。 ●宮前区観光協会が任命している観光情報取材記者の活動を支援する。 ●宮前区文化調査委員会が主催する、宮前歴史ガイドを活用した区内の歴史・文化を巡るウォークイベントといった、区民による地域の魅力の再発見とその情報発信を内容とする事業を実施する。 ●宮前区誕生30周年記念事業として、宮前区まちづくり協議会と協働で、区内直売所を紹介する農産物直売所マップを作成印刷する。 ●宮前区誕生30周年記念ビデオを制作し、活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●従来、区民祭会場において子どもが楽しめる場が少ないとの意見を受け、「第30回宮前区民祭」の子ども向け特別企画として、フアアアとミニSLを水産権前に設置した。 ●区内の歴史的・地域資源を知ること、地域への愛着を深めてもらうことを目的として、歴史ガイドを活用したウォークイベントを年数回程度開催する。 ●自然豊かな宮前区の魅力発信と地産地消の推進を目的に、区内の身近な地域資源である農産物の直売所を紹介するマップを作成印刷する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●観光情報取材記者による活動は、取材情報や観光協会情報紙「宮前の風」(年4回発行)や川崎ウォーカー2011-2012への提供情報に反映されるなど地域の魅力発信につながることができた。 ●宮前歴史ガイドを作成した宮前区歴史文化調査委員会と協働し、春に3回、秋に3回のウォークイベントを開催した。チラシ配布等の広報に力を入れた結果、定員を超える応募が続くほどの好評を得ることができ、安全を最優先に考えたコースや人員により、全6回ともけが人等出すことなく終えることが出来た。 ●農を重要な地域資源と位置づけ、平成24年度事業を前倒しし、直売所52箇所を掲載したマップを12,500部作成、各社新聞に取り上げられるほどの人気となった。 ●宮前区誕生30周年記念ビデオを制作し区内の小学校等に配布するなどし今後の活用を図った。 	<p>平成23年10月16日(日)開催の第30回宮前区民祭において、フアアア及びミニSLを設置。フアアアに800人、ミニSLに850人の利用者があった。</p>	地域振興課
18	地域の魅力発信事業	1,867,885	<ul style="list-style-type: none"> ●区内の中学生に宮前区を知ってもらうこと、受けながら区内を撮影してもらう。 ●撮影した映像をIT関連企業の方に指導してもらいながら制作に挑戦する。その作品をプロの映画監督などが審査を行いコンクールを実施する。 ●長野県佐久市との友好都市交流事業を継続し、両市区の交流をさらに深めていく。 ●交流を実施することで、互いの市にない要素を補完し合い、個性豊かな新しい都市生活文化を創造する区の実現を目指す。 ●民間交流事業 <ul style="list-style-type: none"> ・都市化が進む宮前区において、子供たちが佐久市での自然体験を通じ、里山保持の回復/作りなどの重要性を学ぶ機会とする。 ・運営は体験研修のプログラム作りや、参加者募集、引継など主体的に行える団体に事業委託する。想定参加者40名、1泊2日。 ・物産観光交流事業委託: 両都市の観光物産交流を積極化させるため、宮前区観光協会に委託を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●区内中学校への参加への積極的働きかけ。 ●区内にコンクール開催を様々な方法で広報する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●区内から来場しやすいように、今年度から会場を宮前市民館にして、広報を子ども文化センターや民生委員にも広げること、昨年も来場者が増加した。 ●民間交流事業(子ども自然体験事業)は、平瀬川流域まちづくり協議会へ委託し、8月27・28日に実施。39名の参加者を集め、多くの子どもたちが佐久市の自然とふれあうことができた。 ●物産観光交流は、観光協会に委託し、独自に製作したキャラクターを活用しながら、区民祭への物産展招致やりんごオーナー制度PRを適正かつ効果的に推進した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「宮前の風」発行など都市型観光の特徴的な取組として注目される観光情報記者の活動支援については、引き続き継続して実施する。 ●引き続き農を重要な地域資源と捉え、直売所マップを活用したまち歩きイベントを開催し、区民に地域の魅力を知ってもらう。 ●好評の「宮前歴史ガイド」を活用したウォークイベントの継続、宮前区誕生30周年記念としてウォークコースを紹介するものを作成し、平成25年度に予定している「宮前歴史ガイド」改訂印刷につなげる。 	地域振興課
19	みやまえ映像コンクール 支援事業	805,000	<ul style="list-style-type: none"> ●区内の中学生に宮前区を知ってもらうこと、受けながら区内を撮影してもらう。 ●撮影した映像をIT関連企業の方に指導してもらいながら制作に挑戦する。その作品をプロの映画監督などが審査を行いコンクールを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●区内中学校への参加への積極的働きかけ。 ●区内にコンクール開催を様々な方法で広報する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●区内から来場しやすいように、今年度から会場を宮前市民館にして、広報を子ども文化センターや民生委員にも広げること、昨年も来場者が増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●区内中学校に広報や依頼をしているが、学校によって取り組みへのばらつきが見られる。学校への働きかけ方法を見直し、より多くの中学生が参加できる仕組みを考えていく必要がある。 	地域振興課
20	友好都市交流事業	469,647	<ul style="list-style-type: none"> ●長野県佐久市との友好都市交流事業を継続し、両市区の交流をさらに深めていく。 ●交流を実施することで、互いの市にない要素を補完し合い、個性豊かな新しい都市生活文化を創造する区の実現を目指す。 ●民間交流事業 <ul style="list-style-type: none"> ・都市化が進む宮前区において、子供たちが佐久市での自然体験を通じ、里山保持の回復/作りなどの重要性を学ぶ機会とする。 ・運営は体験研修のプログラム作りや、参加者募集、引継など主体的に行える団体に事業委託する。想定参加者40名、1泊2日。 ・物産観光交流事業委託: 両都市の観光物産交流を積極化させるため、宮前区観光協会に委託を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもたちが佐久市において自然体験等を行う民間交流事業及び区民祭への佐久市物産展誘致等を行う物産観光交流事業を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●民間交流事業(子ども自然体験事業)は、平瀬川流域まちづくり協議会へ委託し、8月27・28日に実施。39名の参加者を集め、多くの子どもたちが佐久市の自然とふれあうことができた。 ●物産観光交流は、観光協会に委託し、独自に製作したキャラクターを活用しながら、区民祭への物産展招致やりんごオーナー制度PRを適正かつ効果的に推進した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●各事業を通して、区民が佐久市の文化に触れるきっかけを提供することができ、一定の役割を果たすことができた。今後も、物産観光交流と子ども自然交流を柱として交流を推進する。 	地域振興課

平成23年度 宮前区地域課題対応事業評価一覧表

NO	事業名	決算額 (円)	事業の概要	23年度の取組	成果	24年度以降の事業の方向性	担当課
6 地域コミュニティ活性化推進事業							
			<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくり協議会が中間支援組織として、地域で活動している団体間のネットワーク化を推進し、まちづくりのつなぎ役として活動することにより、市民活動を積極的に支援する。 ●活動支援金により市民活動団体の活動を維持・活動の拡大を支援する。 ●市民活動団体の活動を広報紙「まちづくり広場」を通じて紹介することで、新規会員の増加を後押しする。 ●様々な手法で市民活動団体を支援することにより、まちづくりを活性化させ、地域が抱える課題解決も取り組むことにより、区民主体のまちづくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①市民活動団体の活動を紹介する広報紙「まちづくり広場」を発行する。 ②活動資金不足に悩んでいる市民活動団体に対し活動支援金を交付する。 ③市民活動団体の情報収集及び収集した情報の発信を通じて、市民活動団体相互の交流を促進する。区やまちづくり協議会のホームページを通じて、協議会の活動内容や区民のまちづくり活動等を区民に発信する。 ④行政と連携・協働した事業を幅広く展開する。 ⑤区内の美しい景観、市民活動を紹介するフォトコンテストを実施する。 ⑥市民活動団体の活動発表の場として「まちづくり広場」を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「まちづくり広場」を毎月発行、2月に創刊20号を迎えたため特別号も併せて発行し団体活動等を発信した。 ②活動支援金を20団体に交付し活動の活性化を図った。 ③まちづくりウォーカーキングを実施し区民が団体に活動等へ参加し協働事業を推進した。 ④ふれあいフェスタ等へ参加し協働事業を展開した。 ⑤第6回フォトコンテストを開催し過去最高の応募数となった。 ⑥第4回フェアみやまえを開催し過去最高の入場者数を記録した。 	<p>中間支援機能を有する唯一の組織として、団体活動等を「つなぐ・むすぶ」ひろげ「パートナーシップ」の視点で活動することが今後重要であり、課題解決に向けて区民主体の快適で住みやすいまちづくりを目指す。</p>	地域振興課
21	まちづくり推進事業	3,952,482		<ul style="list-style-type: none"> ①まちづくり協議会へのコンサルティング及び協議会等の運営支援を行う。 ②まちづくり広場ラブみやまえ(まちづくりフォーラム)への企画提案及び実行委員会への支援を行う。 ③区内のまちづくりの支援に対する助言及び提案を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ウォーカーキングイベントの開催や成果物等の作成過程における粗算的に分かりやすい案内チラシ等の作成や、市民活動応援カード第3版の企画作成等、まちづくり協議会へのコンサルティングを効果的に実施した。 ②第4回ラブみやまえでは、12回におよぶ会議への出席とおおした企画提案や当日の運営に関わる支援、当日プログラムの作成等実行委員会への支援を効果的に実行した。 ③活動団体が活性化化するよう仕掛け作りを中間支援機能を有するまちづくり協議会に提案・実施し、効果的に活動できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●区民にとって住みやすいまちづくりを行うため、まちづくり協議会や区民のまちづくり活動に対して専門性を有するコンサルタントからの適切なコンサルティングは必要不可欠である。 ●慣例慣行を改善し、委員による新しい企画を実現する際にコンサルターの専門的能力への期待感は大きく、新たな企画・創造の契機ともなる。 ●今後とも計画的な企画展開を行政・区民・コンサルターの三位一体で図る必要がある。 	地域振興課
22	まちづくり支援事業	2,815,050	<ul style="list-style-type: none"> ●世代を超えて楽しめる催しとする中で区としての一体感を高めるとともに、イベントに参加する団体と区民が、様々な企画での体験や会話を通じて相互の連帯やコミュニケーションを体感する場とする。 ●地域で活動する市民活動団体等が企画した体験・学習などの催しを通じて地域や世代間の交流を図り、地域コミュニティの創造や育成のきっかけとする。 ●実行委員会は地域を知る機会を提供し、や団体同士の交流の場とする中で、市民活動の活性化を通じて地域コミュニティの促進が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●宮前区赤十字奉仕団と協力して募金活動を実施することで、市民活動団体の活動可能にし、ユニセフ系列の団体や共同募金系列の団体と協力しながら募金活動ができる体制を整える。 ●若い世代の活動に企画内容を合わせる知ってもらう場とするため、宮前平中学校に事業の依頼となる美術作品の作成や段や運営へ参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●区として東日本大震災後初のイベント実施となった。 ●復興支援として赤十字奉仕団と連携し募金活動を行い、約150千円もの協力を得ることができた。 ●震災直後ということもあり、市民館ホールでの避難所講習の開催や危機管理連絡体制の確立もおこなった。 ●宮前平中学校と連携し、大階段アートを作成してもらった。 ●田園調布学園大学にボランティア依頼を出し多大な協力を得ることが出来た。 	<p>平成24年度については7月1日に「宮前区誕生30周年まつり」が開催されることから、直近のイベントである本事業は中止とする。</p> <p>平成25年度以降については「宮前区誕生30周年まつり」の動向にあわせて検討する。</p>	地域振興課
23	みやまえふれあいフェスタ開催事業	1,849,898		<ul style="list-style-type: none"> ①フロンタールさきぬまの連携事業(フロンタール大会、ポールウォーカーキング観戦ツアー等) ②トップアスリートを活用したスポーツ推進 ③新たなスポーツ施設の整備に向けた調査 	<p>様々な事業を行うことで、テレビ・ラジオ等への放送され、より多くの区民にPRすることができた。</p>	<p>フロンタールさきぬまとの協力関係は継続していき、より区民がスポーツに親しめる環境づくりが必要となっている。</p>	地域振興課

平成23年度 宮前区地域課題対応事業評価一覧表

No	事業名	決算額 (円)	事業の概要	23年度の取組	成果	24年度以降の事業の方向性	担当課
24	みやまえスポーツ ふえすずまいはる開催 事業	1,706,916	●宮前区内で行われてきた複数のスポーツ大会をスポーツ技術の向上、健康増進という共通の事業目的のもと関連した事業としてひびくりにするとともに、新規の大会についても企画し実施することで、区民に対してスポーツ参加意識の向上を図ってきた。 ●秋こつ会やアindsayカバークォークは、区民・同士のふれあいや、高齢者や若年層の健康増進を図ることが最大の目的となっており、広報を通じ多くの参加者を集めている。	●体育指導委員・専ら年指導員との取組を検討し、ニュースポーツ等の新事業への取組を検討する。 ●市民ニーズに対応するため、また継続的に見てもらえる情報とするため、これまで発行してきたイベントカレンダーと同一の発行形式にしながら、新たな地域情報の発掘に努める。 ●回覧物については、より効率的、効果的な手法を検討する。	●ソフトボール大会では継続して出場しているチームのほか、新たに参加するチームも増え、より多くの方が参加でき技術向上・交流の場となっている。 ●ニュースポーツであるソフトボール大会では応募する小学校が増え、地域内の小学生を中心に競技として広がってきている。 ●秋こつ会やアindsayカバークォークなど、広く参加を募り健康増進と交流を目的としてイベントでは、区民がスポーツを通じてふれあう機会ができ、区民交流の場づくりができています。	●区民の利便性を高め、区の魅力を発信するため、イベントカレンダー「歳時記みやまえ」を発行する。 ●町内会、自治会の回覧物の回覧については、チラシの種類の削減し情報の整理を図るなど、効果的な情報発信手法を検討する。	地域振 興課
25	地域情報発信事業 (区民会議課題)	2,709,774	●イベントやお祭り・伝説行事など、地域で行われている地域活動や区が実施している取り組みなどを広く発信し、地域活動への参加を促進することで、地域への愛着や関心を高めるとともに、世代間・地域間交流、親子のコミュニケーションづくりの一助とし、地域コミュニティを活性化していく。 ●町内会、自治会やマンション管理組合等の住民組織に向け回覧物を一括配送し、市政情報や地域情報を効率的、効果的に発信していく。	●事業概要に第3期実行計画「宮前区区計画」を掲載し、区の主要な取組が体系的に伝わるようにする。また、必要以上に細かく記載しすぎないよう、簡潔化するなどの工夫を行う。 ●来年度以降に向けて、こうした形式での行政情報の提供以外に、どのような情報発信が区民に求められているかを検討する。	●市民ニーズに合わせた版や区ホームページ上でイベントや講座などの情報を掲載した。町内会、自治会の回覧物について、市・区民協議会と調整を行い、まとめて回覧物を配送していくなど、区民の負担軽減に向けての取組を行うことができた。	●平成19年度から5年度にわたり発行し、一定の周知ができたと考えられることから、現在の形式での情報発信は終了する。 ●今後は、第3期区民協議会からの提案である「地域コミュニティへの参加を促す雑誌」を発行することにより「宮前区で暮らす」という視点から情報発信を行う。	企画課
26	宮前区役所事業概 要発行事業	199,500	●区の事業や予算をまとめた冊子「宮前区役所事業概要」を作成し、区民に区の施策を分かりやすく体系的に周知する。	●作成にあたり、ユニバーサルデザインが適用されているかどうか、市や印刷業者以外の外部機関において審査を経たものを使用する。 ●バス路線の変更や地図表示内容の名称変更や移転などについては常に注目をし情報収集を行いながら最新の情報にて発行する。	●平成23年10月1日に発行済、1年間配布を続けるため、組織再編に伴う区役所業務の変更についても発行時点で予測のつく変更についてもフォローできるような発行。 ●地図については、レイヤーの表示・非表示が選択できるPDFデータの納品を仕様に見込み込み、他業務でも利用することで、地図が「紙⇒データ」「白黒⇒カラー」での操作が可能となった。	5年に一度、改訂を検討。平成26年がそれにあたるため、3か年計画には折やデザイン等を一掃する金額(1,420,000)を反映している。改訂の内容は随時区民の方の反応を見ながら検討していく。	地域振 興課
27	宮前ガイドマップ作 成事業	779,625	●宮前区への転入居者への配布が主であるので、道路や公園などの街なみや、区内の主要施設の情報など、正確な情報を伝えることが重要であり、原則として毎年度情報の更新をするとともに、5年に1回程度の割合で全面改訂を検討する必要がある。 ●地図により宮前区および区内主要施設を紹介することで、区民の利便性の向上が期待できる。 ●区内のスポーツ等を紹介することにより、宮前区への関心を高め、区のイメージアップを図ることができる。	●地元資源、歴史・石造物、産業・観光施設、自然環境、文化、デザイン、編集・写真撮影等、様々な分野から精通している委員を幅広く多く集める。 ●コンセプト(対象読者)・今後のスケジュール(何を掲載するか)・今後のスケジュール等基本事項について各委員の意見要望を集約し、この1年間で掲載対象を定め情報収集に努める。	●公募により、前回10名を大きく上回る17名の委員によって委員会を組織することができ、さまざまな分野に精通したメンバーが揃った。 ●1年を通しての会議や取材活動などにより原稿執筆や台詞作成等があらままとまりつつあり、翌年度デザインを固めて印刷・発行・PRなどを行う。 ●区制30周年の冊子とするため、30周年ロゴやキャッチの使用も決定している。	平成24年度に印刷・発行で事業終了。10,000部発行としているが、在庫を見ながら増刷の予算要求を検討。	地域振 興課
28	みやまえガイドブッ ク改訂事業	273,870	●実行委員会形式で進め、職員や一般的な編集者などが知らない情報を区民から提供を受けながら作成をする。 ●区民目線での編集により、宮前区の魅力を深く知ることができ、これにより宮前区への関心を高め、イメージアップを図ることができる。 ●区制30周年にあわせて平成24年度発行。23年度に実行委員会を立ち上げ、約2年かけて掲載事項を決定し発行する。 ●地元区民にしかわからない情報や季節や場所を配した写真の撮影など最新情報に加え、公募による実行委員のセンス・インスピレーション、創造力等を活かす。	●地元資源、歴史・石造物、産業・観光施設、自然環境、文化、デザイン、編集・写真撮影等、様々な分野から精通している委員を幅広く多く集める。 ●コンセプト(対象読者)・今後のスケジュール(何を掲載するか)・今後のスケジュール等基本事項について各委員の意見要望を集約し、この1年間で掲載対象を定め情報収集に努める。	●公募により、前回10名を大きく上回る17名の委員によって委員会を組織することができ、さまざまな分野に精通したメンバーが揃った。 ●1年を通しての会議や取材活動などにより原稿執筆や台詞作成等があらままとまりつつあり、翌年度デザインを固めて印刷・発行・PRなどを行う。 ●区制30周年の冊子とするため、30周年ロゴやキャッチの使用も決定している。	平成24年度に印刷・発行で事業終了。10,000部発行としているが、在庫を見ながら増刷の予算要求を検討。	地域振 興課

平成23年度 宮前区地域課題対応事業評価一覧表

No	事業名	決算額 (円)	事業の概要	23年度の取組	成果	24年度以降の事業の方向性	担当課
29	シニアライフ支援事業 (区民会議課題)	597,922	シニア世代がこれまでの人生で身につけてきた知識・経験を身近な地域で活かすきっかけを提供することで、暮らしやすい地域づくりとシニア世代の居場所づくり、生き甲斐づくりを支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ●シニアライフ相談窓口の開設(毎週木曜日の9時～12時、区役所階ロビーで開設、出張相談も実施) ●シニア世代向け講演会の開催(市民館との共催による「大人の文化祭」での実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ●シニアライフ相談窓口を延べ59日開設。(区役所46日、出張所3日、ふれあいフェスティバル1日、大人の文化祭1日) ●「大人の文化祭」でシニア世代の社会参加をテーマに有識者による対談を実施。出演：天下勝巳(親父の会「いんたか」世話人)、斎藤ゆかり(聖徳大学准教授)、宮下敏子(かわさきFMアナウンサー) テーマ：居場所づくり、生き甲斐づくり、地域づくり参加者：約160人 	<ul style="list-style-type: none"> ●「大人の文化祭」の趣旨や参加団体が、まちづくり協議会主催の「まちづくり広場ラブみやま」で重複していることから、24年度は市民主体の取組である「ラブみやま」に一本化する。 ●シニアライフ相談窓口は、当初の目的であるシニア世代の社会参加に関する相談が非常に少ないため、見直しを行う。 	企画課
30	多様な主体の社会参加促進事業	470,000	区内小学生を対象に、公募した区内在住の成人・高齢者を中心とした遊びの達人による伝承遊びなど素朴な遊びを伝授する場を提供する。 ●公募により集めた中高生や青年のボランティアに、小学生と遊びの達人とをつなぐサポーターとしての参加を促し、全世代を対象とした世代間交流の場「あそびランド」を実施する。 遊びランドの企画運営については公募による企画委員と協働により実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ●「遊びの達人」と称する、各世代を代表する遊び・ゲームの名人が遊びの紹介や競技を行うことで、世代間の交流と親交を深める(けん玉・お手玉・ペーゴマなど昔あそびの提供、六角箱や折り紙、竹とんぼや、ぶんぶんこま等を作って遊ぶコーナー等) ●外遊びの紹介等の実施。 ●ポータルで遊ぶ(小学生や中学生の、ダンス等の活動の発表。) 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業当日の天候は思わしくなかったが、来場者約2,700人当日ボランティア約40人、達人約160人が集まった。 ●当日ボランティアは中学生～大学生が大多数を占めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度は「水」を活用したコーナーを設け、遊びを一方通行で享受されるのではなく、様々な参加者が、一体となり、共に遊びを生み出すことができた。 ●翌年度以降は、今年度と同じ予算の中で更なる発展が期待できる。 	生涯学習支援課
31	地域活動の促進に向けた人材育成及び推進体前の整備	215,997	区の生涯学習推進会議にプロジェクトチームを設け、区における地域人材の育成と活用の方策等について定めた「地域人材育成指針」を23年度末までに策定する。 ●指針づくりのために、区各課の連携によるモデル事業を実施し、その成果と課題を指針づくりの内容に反映する。 ●23年度は、保健福祉センターと連携し「保育、子育てボランティア養成講座」及び区の主要事業である「冒険あそび場」と連携した講座を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ●生涯学習推進会議の開催及び作業部会の立ち上げと「指針」策定作業。 ●作業部会では、月1回程度集まり、有識者との意見交換を行い、さらに指針(関係者の庁内勉強会を行い、職員の見解を反映させながら策定作業を行った。 ●平行し庁内調整、推進会議での意見伺い、指針に反映させた。 ●モデル事業の実施に係る関連部署との事業調整を行い、モデル事業を通じて、その分野の担い手となる地域人材を育成することができ、事業の評価・検証を指針策定に反映させた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●生涯学習推進会議作業部会を立ち上げ、月1回程度集まり、有識者との意見交換や庁内の勉強会を実施し職員の見解を反映させ、素案の策定作業を行なった。 ●平行して区長、副区長、ならびに生涯学習推進会議にて業説明を行った。 ●地域人材育成指針を策定した。 ●モデル事業「冒険遊び場づくり講座」に子ども、子育てボランティア養成講座」では、区役所関連各課で連携して企画、運営を行い、講座を通じてそれぞれの分野において担い手となる地域人材を獲得することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度は、地域人材育成の視点から留意すべき事項やの方策等を整理し、まとめた「地域人材育成指針」を策定した。 ●次年度は、この指針に基づいたモデル事業を継続して実施することにより指針が活かされ理論と実践を通じた人材育成が可能となる。 ●モデル事業として企画課と連携する「みやま情報サポーター養成講座」と、地域保健福祉課と連携する「高齢者健康づくりリーダー養成講座(仮称)」を実施する。 	生涯学習支援課
32	市民活動支援拠点のネットワーク事業	2,965,131	市民活動拠点の有効利用促進のための情報収集や発信等の機能充実を図る。 ●宮前区まちづくり協議会を通じて、区内の市民利用施設を通じて「宮前区市民活動応援マップ」を作成する。 ●区内の支援コーナーに利用登録している市民活動団体を紹介した「みやま市民活動のなかま」を、各支援コーナー運営委員会の協力を得ながら作成する。 ●集会所スペースが増設される向丘地区区民活動支援コーナーへは備品の整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ●市民活動拠点の有効利用促進のための情報収集や発信等の機能充実を図る。 ●宮前区まちづくり協議会を通じて、「活動場所がない」という市民活動団体の悩みを解決するために役立つ、区内の市民利用施設を紹介した「宮前区市民活動応援マップ」を作成する。 ●区内の支援コーナーに利用登録している市民活動団体を紹介した「宮前区市民活動応援マップ」を、各支援コーナー運営委員会の協力を得ながら作成する。 ●集会所スペースが増設される向丘地区区民活動支援コーナーへは備品の整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●活動拠点32施設を明記した「宮前区市民活動応援マップ」を2,000部作成し、団体活動を後押しした。 ●まちづくり協議会をおとして152団体を紹介した「みやま市民活動のなかま」を6,000冊発行し活動団体への新規加入を促進した。 ●向丘地区区民活動支援コーナーにおいて、集会所スペースを増設し、区民活動利用団体により一層の支援・促進を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●支援コーナーの設立時期にかかわらず市民活動に必要な機械等を引き続き備える必要がある。 ●区内支援コーナーの事務局が異なるため、設備機器、利用料金・登録団体等の情報を統一的に集約することが効果的であり、収集した貴重な情報を活動団体等に発信することが重要。 ●向丘地区区民活動支援コーナーにおいては、引き続き登録団体の相互交流を支援・促進し、新規加入の増加を図る。 	地域振興課

平成23年度 宮前区地域課題対応事業評価一覧表

No	事業名	決算額 (円)	事業の概要	23年度の取組	成果	24年度以降の事業の方向性	担当課
33	みやまえカルタ制作事業 (区民会議課題)	4,716,185	<ul style="list-style-type: none"> ●地域への愛着を醸成し地域コミュニティの活性化を目指し、幅広い世代が参加して地域のカルタ制作に取り組み。 ●平成23年度は、各中学校区のカルタを完成させ、各地域で活用していく。また、各中学校区のカルタから選考して、区のカルタ「みやまえカルタ」を決定する。 ●平成24年度には、区制30周年を迎えることから、区制30周年記念事業として、(仮称)「みやまえカルタ」を制作し、記念カルタ大会等を開催する。また、完成したカルタを地域や教育現場で活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●実行委員会による、中学校区ごとの読み札、絵札案の選定及び全中学校区カルタの制作委託によるカルタの完成。 ●区民祭等イベントにおいて、各中学校区のカルタのお披露目を行う。 ●実行委員会による区のカルタの選考・決定。 	<ul style="list-style-type: none"> ●区民祭でのジャンボカルタ大会、年末には全7中学校区の地域カルタが完成したことで宮前区賞詞交歓会でお披露目、小学校の授業でのカルタを使った地域学習や各地域でのイベント等での展示やカルタ大会など随時実施したこと徐々に広がりを見せている。 ●カルタにごく身近なものを詠み込んでいたため、区民にとって親しみ感があることから地域からの入手希望も増えている。 ●来年度の区のカルタの作成に向けて、読み札の市民投票を実施することで、さらに区民への意識付けとPR効果が増した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●最終的に中学校区ごとに冒険遊び場ができるよう、引き続き支援要綱に基づく新規グループの立ち上げ支援と既存グループの活動支援を行う。 ●「冒険遊び場シンポジウム」と「出張冒険遊び場」を中心に普及・啓発を図る。 ●「冒険遊び場づくり講座」により地域の担い手を育成する。 ●「冒険遊び場ネットワーク」と「出張冒険遊び場」を中心に普及・啓発を図る。 ●市民主体の活動支援組織「冒険遊び場支援委員会」と登録団体による「冒険遊び場ネットワーク」を立ち上げた。 	企画課
34	冒険遊び場活動支援事業 (区民会議課題)	938,073	<ul style="list-style-type: none"> ●身近な公園などのオープンスペースを活用し、地域住民が主体となった冒険遊び場を実施することにより、子どもたちの自由な発想で遊び出し、ケアなどの責任も含めて自由に遊ぶことのできる次世代育成の場づくりを目指す。 ●地域主体の冒険遊び場活動に、若い世代の父親や昔の遊びを経験しているシニア世代など多様な世代が関わること、地域コミュニティの活性化を目指す。 ●「冒険遊び場」を広げるため 1. 種福寺の広報・啓発活動の実施 2. 冒険遊び場シンポジウムの開催 3. 出張冒険遊び場づくり講座の実施 5. 冒険遊び場ネットワーク会議の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ●冒険遊び場活動支援要綱に基づく市民グループの活動支援(新規グループの立ち上げ支援と既存グループの活動支援) ●冒険遊び場活動支援事業の普及・推進(「冒険遊び場シンポジウム」と「出張冒険遊び場」の実施) ●地域における担い手の育成(「冒険遊び場づくり講座」の実施) ●関係団体や関係機関との連携による積極的な広報・啓発活動の実施 ●活動を行う市民グループによる冒険遊び場ネットワーク会議の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ●3つのグループが支援要綱に基づく団体登録を行った。 ●冒険遊び場シンポジウム開催(約50名参加) ●冒険遊び場ミニ講演会開催(約20名参加) ●出張冒険遊び場2回開催(延べ400名参加) ●冒険遊び場づくり講座実施(16名参加) ●市民主体の活動支援組織「冒険遊び場支援委員会」と登録団体による「冒険遊び場ネットワーク」を立ち上げた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●最終的に中学校区ごとに冒険遊び場ができるよう、引き続き支援要綱に基づく新規グループの立ち上げ支援と既存グループの活動支援を行う。 ●「冒険遊び場シンポジウム」と「出張冒険遊び場」を中心に普及・啓発を図る。 ●「冒険遊び場づくり講座」により地域の担い手を育成する。 ●「冒険遊び場ネットワーク」と「出張冒険遊び場」を中心に普及・啓発を図る。 ●市民主体の活動支援組織「冒険遊び場支援委員会」と登録団体による「冒険遊び場ネットワーク」を立ち上げた。 	こども支援室
35	宮前区誕生30周年記念事業	1,689,368	<ul style="list-style-type: none"> ●区内の主要団体が組織された実行委員会と協働し、7区でも先駆的な試みとして制定した周年記念ロゴマーク及びキャラクターを活用したPRグッズの制作し、30周年記念事業の効果的なPRを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●記念ロゴマーク及びキャラクターを活用したグッズの製作及び区内団体への事業協力への啓発活動を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●記念キャラクター「宮前兄妹」の着ぐるみ及びぬいぐるみ並びにステッカー及びパネルを製作するとともに、区内196団体に向けて30周年記念事業協力へのPR活動を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●次年度については、区誕生30周年記念事業として、記念式典の開催やメディア連携事業等を実施する。 	地域振興課
7 区役所サービス向上事業							
35	宮前区役所BGM配信事業	42,000	<ul style="list-style-type: none"> ●来庁者が各種手続きを行う待ち時間などに、心穏やかに過ごす有意義に過ごせるように庁舎内に心なごむ音楽を流すことにより、身近で明るく、親しみのある場所として庁舎内にBGMを配信する。また、職員においても心のゆとりが生まれ、質の高いサービス提供が図れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●その時期の季節感を十分に取り入れた音楽を委託業者と協議し、来庁者に快適な空間を提供し、待ち時間を有意義に過ごしていただく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●庁舎内にBGMを流すことにより、単に行政上の申請等を行う場としての区役所にとどまらず、区役所を区民にとって身近で明るく親しみのある場所として提供できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●音楽配信業者の選定に十分時間を費やし、多くのノウハウをもつ業者の選定を行う。また、安価で操作等に多くの時間を必要としない作業内容を検討する。 	総務課
36	パリアフリー推進事業	1,575,000	<ul style="list-style-type: none"> ●区役所サービス向上指針を策定しこれに基づき、乳幼児・妊産婦・高齢者・障害者など多くの区民に対して快適に利用できる区役所庁舎のための取組を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●来庁者が安心して利用できるように階段部分をノンスリップ化するとともに、階段であることを明確にする意識を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●パリアフリー化により来庁者に対する安全性および区民サービスが向上した。 ●工事内容・期間・範囲等施行業者と確認を行い、仕様書等に沿って適正に工事を実施することが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ●庁舎内施設のパリア確認を常日頃から実施するとともに、来庁者からの指摘などを真摯に受け止めるようにする。 ●庁舎改良工事については、多額の費用が見込まれ、優先順位などの議論を十分実施したうえで、箇所決定を行っていく。 	総務課

平成23年度 宮前区地域課題対応事業評価一覧表

No	事業名	決算額 (円)	事業の概要	23年度の取組	成果	24年度以降の事業の方向性	担当課
37	窓口サービス向上 事業 (待合スペース環境 整備)	957,881	●平成21年度宮前区協働推進事業にて設置された区民課キャブコーナーで使用している絵本の補修や交換を行う。 ●老朽化及び今年度の係増設対応のため、前年度末に購入・置き換えした窓口番号札発券機の維持・管理を行う。	●平成24年1月専断予定の区役所出張所機能再編に伴い待合スペースを拡張し、レイアウト変更を行う。 ●絵本コーナーは、老朽化した絵本の交換や補修を行い環境整備を行う。 ●年度当初及び区役所リニューアル事業のレイアウト変更と度重なる受付窓口の変更に対応するため、来庁者が混乱しないよう、昨年年度末に購入・置き換えた窓口番号札発券機を効果的に活用して、定期的に機械のメンテナンスを依頼し、円滑で効率的な窓口サービスの向上に役立てる。	●絵本は、22冊購入し入れ替えることができた。 ●記入者に配布している「ようこそセット」に区長あいさつと区役所事業案内を入れ、区民サービスの向上を図ることができた。 ●窓口番号発券機の導入を行い、並って順番をお待ちいただくようにすることができた。 ●窓口番号札発券機をおこなうことができ、待合環境の整備をおこなうことができた。 ●窓口案内が実施できた。 ●レイアウト変更による窓口番号の変更にも迅速に対応し、わかりやすい窓口サービスの提供に努めた。	●「絵本コーナー」は区民の方により好評でよく利用されている。今年度2階の待合フロアが拡張されたので、今後は本棚を購入し2か所設置し、より利用しやすくする必要がある。 ●区役所リニューアル事業に伴う事務室のレイアウト変更によって、待ち合いスペースの一部がカウンターと離れたため、混雑時に来庁者が待ち合い場所で混乱することがある。今後のリニューアル事業で待ち合いスペースを再整備し、より快適で利用しやすい窓口サービスの実現に取り組む。	区民課、 保健年金課
7	その他						
38	管理運営経費	507,156	地域課題対応事業における事務経費				
39	緊急対応費	0	地域課題を地域自ら解決していくことを目指し、区民会議から提案された課題の解決や地域課題の課題解決に取り組む団体等を広く募集し、区役所がその取組を委託、事業補助などの手法で支援する。	●「地域の課題解決を図る事業提案制度」は、4月現在1件（「地域のたまり場」の創出）の採用があるため、提案団体との協働事業を実施する。 ●提案は随時募集のため、提案があり次第、要綱に基づき審査等を行う。	本提案事業を通じて協働型事業ルールに基づき事業を実施することにより、区民と区役所の協働による地域の課題解決が着実に進んでいる。	提案事業の委嘱が上がっていることに加え、取組を活かした地域の活力づくりや、第3期区民会議提案に基づく課題解決の取組を推進する必要があることから、予算を拡充させる。	企画課
40	地域の課題解決を図る事業提案制度 事業	386,900					

合計	53,840,938
----	------------

【地域課題把握アンケート まとめ】

分野	番号	提案者	ジャンル	課題	課題の概要	解決策・解決への取組
① 防安全で快適に暮らすまち環境づくり (防犯・防災・交通)	1	佐藤	交通	通学児童の安全確保	稗原小学校児童の登校 道幅：4m (側溝55cm含む) 距離：115m (車道・歩道の区別なし) 時間帯交通量：児童55名、自動車40台、バイク10数台 交通網の整備あるいは交通不便な地域に住んでいる方の足の確保	3名にて見張りを行っているが、どう指導すれば安全に通学できるか。
	2	直本	交通	交通不便地域の対応	高齢化して今のバス路線では不便な地域がある。公共施設への足が不便。	近隣相互の協力、地域支援。バス・タクシーなどの乗り物の整備
	3	藤田	交通	公共交通不便地域		コミュニティバスの導入、公共施設へのバス路線
	4	山下	交通	交通環境整備	●区役所・駅への交通アクセス不便 (特に初山・五所塚・有馬地区) ●区内の東西交通不備 田園都市線・東名高速で東西分断。区内一体感に問題あり。	都市計画道路未整備部分の整備促進 (特に梶ヶ谷菅生線、登戸野川線) 道路があればバス路線新設や組み合わせも可
	5	平井	防犯	駅前立交番	宮崎台駅前交番がない。防犯安全確保のための、交番をふやす。	
	6	平井	防犯	子ども安全確保。夜間の防犯の矛盾点	見守りのパトロールがあるが、その反面子どもたちは、警戒しすぎて地域での気軽な挨拶ができてない。学校があまりにも閉鎖されている面もある。	
	7	芒崎	住環境	トンネルの清掃	通学路でもある梶ヶ谷の尻手黒川道路につながるトンネル内がはとの糞等で汚れが目立ち、不衛生。安心して気持ちよく通れるように。	地域住民の協力。どのように清掃を行うか、清掃用具等にかかる費用はどうか。相談をしながら実行できれば。
	8	宮崎	住環境	美観景観も含めた各種建造物のデザイン性を高めるための制度提案。	周囲を見渡せば、街中の各種建造物はデザイン的な視点から調和が取れていない箇所が多すぎる。	デザインの役割は、人の心を癒し、夢や、楽しさ、感動を与える。街づくりの基本はまず、デザイン力の向上だと思いますが、宮前平駅前交番の外観デザインは地域の活力を低下していると思われる。
	9	本郷	住環境	ラブホテル建設	川崎 I C おりて清水台方面に向かう処、旧道路公園事務所横の空き地にラブホテル建設のうわさあり	うわさを確認して本当なら阻止の動きにつなげたい
② 幸せな暮らしを共に支えよう (地域福祉・健康)	10	大槻	防災 (工コ?福祉?)	災害に強い地域の実現	原発停止等による電力不足対応。災害時の病院・葉の対応。一人住まいの老人対応。	①電力エネルギーは集中から分散へ。太陽光発電パネルを公共施設・森林・川岸等に設置⇒売電②病院・薬局データ電子化し、クラウド化③一人住まいの老人対応で、病氣・葉・連絡先等の覚書を冷蔵庫に④災害時の緊急物流対応
	11	黒沢	防災	防災関連	地震等災害に備える。避難路・場所の確認。区民各自3日分の水・食糧等を備蓄する。	ヘルメット・ライト・ラジオ等の用意。 ・防災フェアの開催、会場に行く足の確保。市バスの乗り継ぎができないか?
	12	山下	防災	防災対策	宮前区での防災の特徴。津波なし、溢水、木密地域少ない。したがって、各家庭での対応、備蓄倉庫、帰宅困難者などが主眼	区としての防災指針。または対策立案。
	13	大村	健康	健康の増進	①医療保険料の増大 年間37兆円にも達する ②生活習慣病の増加 ③介護者の増加と家庭問題 ④医薬品に依存する生活	①quality of lifeの向上をめざす②週6回の公園体操の実施③積極的体毒の排出 (デトックス)
	14	森山	健康	スポーツ指導環境の充実	生涯学習としてスポーツを文科省から推奨され、教育委員会等から早くそういう活動団体をつくりなさいよという奨励がある。やと宮前区に菅生地区の生涯スポーツ団体が立ち上がった。	せっかくスポーツセンターができたが、スポーツセンターは入札で簡単にスタップがかかわる。文科省が進めている生涯学習のスポーツ的な要素をどなたでも受け入れるような立場の計画企画者が居座れない。そういう安定的な、長期坂道マップの活用。区民の方々が坂に親しみをもち環境づくり。あわせて、それらの下地に必要な健康づくり、体力づくり。
	15	浦野	健康 魅力	坂道を活かしたまちづくりの長期的な推進	第3期においては冊子製作の話までしかできなかったという印象。活用や健康づくりまで話を広げていくことができれば。	
	16	太田	地域福祉	福祉ゾーンをつくる	宮前区には市営住宅などの公営住宅が多い。福祉的対応のできる施設を呼び込み安心してくらせる「まち」にする。	

17	大田	コミュニティ 高齢者 (コミュニティ ハイ?)	孤立死を防ぎましょう	宮前区は人の入れ替わりの早いところのため、お互いに交流のないまま過ぎていく。隣近所の交流のある地域を目指したい。	地域でのイベントを考える、または集まれる場を設立し、定期的に開く。
18	福田	高齢者の孤独死・孤立死問題	高齢者の孤独死・孤立死問題	地域における人間としての絆が大切なことをそれぞれ自覚してほしいそれが欠けているような気がする。	町内会を中心に老人会・社会福祉協議会・民生委員等が連携し行政と一体になって見守りの組織作りに取り組んだらどうか。
19	田浪	子育て	「地域」意識の向上…子育て	宮前区は子育てグループが多く古いお母さん達が積極的に地域活動に参加してくれている。しかし、こどもの手が離れてくると地域から遠ざかってしまう人も多い。	子育て時期に仲間作りだけでなく、地域で自分自身を生かそうという意識を持ってもらえるような講座・講習会を開催するなど
20	岡	子育て	○ 地域のお年寄りによる子育て支援・学業支援の強化(中長期的目標)	将来的には区の税収は厳しさを増し、市内7区それぞれが区の特徴を出し、住民に住んでもらうことを考えなければならぬ時期が来るものと思われる。宮前区は30代・40代の若い層の転入出が激しいと言われていますが、一方で、区は「教育レベルが高い」と言われています。そこで、30代・40代のファミリー層に、「安心して教育が任せられる、住みよいまち」であることをPR出来ないかと考える。教育は短期間で成果が出るものではないが、「子育てに理解のあるまち」「児童を安心して預ける諸施策が充実しているまち」を前面に打ち出すことで転入が促進され、転出後も自分が育ったまち宮前区に帰ってくるということができよう、地域のお年寄りに協力依頼する支援策。	既にヤングママを対象に「悩み相談」、「子育て支援」、「両親共働きの方々には「わくわくブラザ」等が活動していますが、これらのさらなる支援のため、地域のお年寄り(老人クラブ、子供のお相手が出来ると高齢者等)に働きかけ、子育て支援、学業支援の手助けをしてもらう地域ぐるみの人間形成型支援の実施。
21	大槻	子育て	家庭教育の支援強化	子どもを取り巻く環境は核家族化・孤立化・共稼ぎが進み、社会全体で家庭教育支援が必要。この観点から地域による親の家庭教育支援や子どもへの家庭教育支援が重要であり、新たな取り組みが必要。「わくわくブラザ」や「こども文化センター」では不十分。	異世代交流。「親育ち・子ども支援地域コミュニティ」構築。拠点は誰でも歩いていける距離で。そこに行く誰かから自分の興味を引く。すなわち地域の小学校。親の持っていないスキル・体験を通じて。未就学児の親へも対応。学校支援センターとも連携。(地域人材・シニア人材)
22	大村	生涯学習	定年後の生きがい探し	①ボストル崎都民②団塊世代の増加③シニア世代の活性化	①生涯学習の充実②ボランティア活動への参加③高齢者大学の創設④シニアよろず相談の利用促進
23	黒沢	自然	環境問題	花とみどりのまちづくり、四季折々気持ちの良い散歩道づくり	◎花・鉢物等の配布 ◎公共の場にごみを捨てないことが重要 ◎区民にその旨を絶えず広報する
24	岡	自然	住民の手による「緑あふれるまちづくり」の推進(短期的目標)	いつの間にか緑がなくなりマンション群が目立つようになった。このままでは、宮前区もベッドタウン化(住む)し、「暮らすまち」にはならない。「花とみどりのあふれるまちづくり」のため、緑化に取り組みでおられる区内の推進団体を一同に会し、住民に「花・緑」に興味を持ってもらうイベント施策があればと考えます。	・「緑化週間」、「地域での花祭り」「区民祭」等における、花の展示即売、花に関する講習会の実施。 ・「緑化運動」に取り組みしている団体の区内表彰。(活動されている団体の励みにもなる)
25	平井	自然	緑の保全、緑のある地域づくり	マンションが多いため開発されるがそこにも、しっかりと緑地の確保ができるように。	解決方法はみんなまで話し合っで行うものだと思います。
26	本郷	自然	平瀬川の水質	地下水路を通じて月に3回ほど汚水が流入している。発生を遏及し、やめさせたい。	地下水路の要所にのぞき窓を設け、市民が確認できるようにしてほしい。
27	白井	公園	土橋7丁目公園トイレについて	公園にトイレが無いということでは不便を感じる人が多い。老人会主催のバスも発着するので、ぜひとの声があります。	
28	福田	工口	廃棄物の減量化	普通ごみについて一般住民の関心が無さ過ぎるような気がする。減量化についてまちぐるみで取り組み組んだらどうか。	一般住民はごみは無料で捨てられると思っている。廃棄物には処理費用に相当な税金が使われていることや分別収集のことをPRし、啓蒙してはどうか

③ まちづくり

③ 子育てを育て・生涯学習を育むまちづくり
(子育て・生涯学習・人権)

④ 環境を守り・自然と調和したまちづくり
(工口・自然・公園)

29	大槻	農業	農業の育成	・分散農地の効率化 ・中堅企業の活性化	①分散農地にセンターを設置し、かんきょうを集中管理して効率化をはかる ②宮前区の大学や近郊大学と中堅企業を連携させ、イノベーションをはかる
30	岡	農業 (魅力?)	農産物産地消の推進 (短期的目標)	宮前区まちづくり協議会で「農産物直売所マップ」が作られた。まちづくり協議会と連動して地産地消を強気に推進出来ないものか。目的は、地域の住民に①区内にも元気な農家があることの紹介②地産地消を進めることで地域住民と農業従事者のWinWinの関係構築すること。最終目的は、区内の住民に宮前区は生活しやすいor暮らしやすいまちであることのPRや認知度アップをはかること。野菜類高騰の折、住民、生産者双方にメリツトが期待出来るものと考えます。	年2回(春・秋)に区内生産者一堂に集待ってもらい、展示販売会(収穫祭)を実施。 ・出展生産者ブースを設け、自作の生産物を展示販売。 ・農産物直売所マップの配布。家庭菜園の作り方講習。採れた野菜での料理教室等々。 ・展示会の場所は北部市場、JAセレナ川崎、宮前区役所広場、宮崎公園leetc ・...
31	宮崎	産業 (こそだて?)	産業振興を意図した起業家 塾の提案	地域経済の繁栄は産業の振興を常に実践することと云われている。多様かつ発展性に富んだベンチャー企業や、将来を有望される多岐な中小企業の出現を願っている。	小学校、中学校における課外活動の一環として区内在住の企業家OB等による起業家の卵を育てるための起業家塾の実現が望まれる。
32	佐々木	産業	地場産業活性化	将来の人口減に対応するためにも、地場産業の発展により働ける場所をつくるのが求められる。中堅企業の育成。	サービス等、特に小さな規模でも成り立つような産業をつなぐことにより、活性化をはかる。
33	黒沢	魅力	友好都市との交流	例年通り佐久市との交流を続ける	より多くの参加者が増える機努力する。
34	宮崎	魅力	観光大使、親善大使の組織 化の提案	観光大使、親善大使の組織化の提案	宮前区の特徴、存在などを地球規模にて発信するために、宮前区とゆかりのある県外、海外在住者を組織化して生活の中での宮前区のPR役を担う。年に数回頻度、レポート提出も行う。この得られた情報をどのように活用するかなども検討したい。
35	佐々木	魅力	新住民に対する地域の広報	新住民に「宮前市民」と呼ばれる、普段は宮前区で仕事や活動をしている新住民に、地元でどんなものがあるか知ってもらい、ひいては地域への愛着の醸成と定住化を図る。	例えば「宮前マラソン」等の市民マラソンを行い、順位を競うのではなく、宮前区内で知ってほしい場所などを通過ポイントとして設置し、同時にその場所の広報などを行う。
36	山下	魅力 ハコモノ	「ハコモノ」または「競技場」の建設	川崎は「おんがくのまち」と言いながら宮前区内にはしかるべき建造物が無い。また、大会を開催できるような競技場が無い。	適当な用地の発掘・確保が必要
37	黒沢	区役所サービス (生涯学習?)	区役所ホームページの充実	広報誌だけでは足りない	・無料パソコン教室の開催 ・フェイスブックの利用
38	平井	区役所サービス	多すぎる回覧物	多すぎる、情報の統一化	
39	大槻	地域コミュニティ	地域サービスのネットによる 検索	宮前区は転入者が多いので各種のサービスを容易に見つけ出せるように。公約サービス以外のボランティア的な安易なサービスをネットで検索できるシステム作り。ボランティアの人々も登録してもらおう。	マッチングシステムを作り、図ったことを解決しやすくする。子育て支援・スポーツ支援もあろう。
40	藤田	地域コミュニティ	みんなが参加できるお祭り	みんなが参加できる祭りが少ない。(区民祭・ふれあいフェスタ)参加のみでなく、手伝いできる体制のをつくる。まちづくりへ積極的に手伝いしている人がまだ少ない。	必ずしも大きな祭りだけでなくもよい。小さな祭りの積み重ね(例:盆踊り)区内での共通意識が持てるもの。ウォーキング大会なども考えられる。
41	田浪	地域コミュニティ	世代間交流	普段接する機会が少ない世代を交流することで新たな発見があったり、地域の見方が変わったたりすることがある。そんな機会を増やしていきたい。	既にラッセルかむクラスで民生委員さんと子育て中のお母さん連との交流があったり子育てフェスタでは中学生ボランティアが遊んでくれていたりしているが大変好評である。気軽に交流できるようなネットワーク作り。

⑤(産業振興)活力にあふれ躍動するまちづくり

⑥(魅力発信)個性と魅力が輝くまちづくり

⑦(地域コミュニティ)参加と協働による・市民自治のまちづくり

つくり	42	田浪	地域コミュニティ	世代間交流	それぞれの世代間の交流だけでなく幅広い年代の人たちが参加できるグループがあるとよい。	ワンククラブなどは比較的世代が限定されていないように思う。パトロールなど防犯対策を行っているが、世代交流にも一役買ってもらえないだろうか？
	43	田浪	地域コミュニティ	「地域」意識の向上…3～40代	時間が無くもともと生活に追われる30～40歳代の人たちに地域の大切さを意識してもらいたい	「楽しい」「お得な」「楽できる」などをキーワードに地域に参加するきっかけづくりをする。商店街とのタイアップ企画など。
	44	平井	地域コミュニティ	地域の町内会。子ども会の加入率の減少	地域で、お互い助け合いのできる触れ合いのあるまちづくり。子どもたちに、良いふるさとづくり。町内会、子ども会の魅力ある活動の工夫と情報交換	解決方法はみんなまで話し合っ行うものだと思います。
	45	山下	地域コミュニティ	町内会・自治会活性化	地域を動かす団体は町内会・自治会。例えば防災・高齢者対策など。新住民の地域に対する意識が低い。役員のなり手がいない。組織率60%台	・町内会、自治会の統一の指針を作成する。好事例を紹介する。防災対策を前面にだす。(今回の委員は自治会関係者が多い)
	46	直本	地域コミュニティ	コミュニティ作り	転入・転出が多く、また、一人暮らし世帯も増えている中で、地域にとけこめない人々も多数いる。もう少し地域の輪や近隣のつながりが深められるコミュニティ作りをすめたい。	近隣のお付き合いを深める
	47	平井		1期2期3期に行った提言の、見守りと、検討	決して面倒というだけでなく、せつかく3期にわたって色々提言しているのでも、それを振り返ってみるのが大切だと思います。3期に提言してた情報サポーター、坂道のことも続けていきたい。	
他⑧	その					

【v.03 地域課題把握アンケート まとめ】

分野	番号	ジャンル	提案者	課題	課題の概要	解決策・解決への取組	類似事業の有無 現在までの区などの取組状況概要	優先度	緊急性・必要性	備考
宮前区ブランド創造	7	住環境	宮崎	デザイン性を高める	周囲を見渡せば、街中の各種建造物はデザイン的な視点から調和が取れていない箇所が多すぎる。中小企業のチラシ等もあまりデザインがよくない	デザインの役割は、人の心を癒し、夢や、楽しさ、感動を与える。街づくりの基本は先ず、デザイン力の向上と思いますが、宮前平駅前前の交番の外観デザインは地域の活力を低下していると思われる。	【企画課 安河内係長に相談】 景観法に基づく景観計画を地域全体にかけつけている。周辺環境の景観や意匠について指導している。			
	11	地域福祉	太田	福祉ゾーンをつくる	宮前区には市営住宅などの公営住宅が多い。福祉的対応のできる施設を呼び込み安心してくらしを「まち」にする。					
	14	健康 (魅力)	大村	健康増進の企画実施	①医療保険料の増大 年間37兆円にも達する ②生活習慣病の増加 ③介護者の増加と家庭問題 ④医薬品に依存する生活	①quality of lifeの向上をめざす②週6回の公園体操の実施③積極的体毒の排出(デトックス)	●有 【地域保健福祉課】 区内において現在42箇所の公園体操が立ち上がっている。また、宮前区ストリート体操「風の中で」等の体操も行っている。			
	15	健康 (魅力)	森山	スポーツ指導環境の充実	生涯学習としてスポーツを文科省から推奨され、教育委員会等から早くそういう活動団体をつくりなさいよという奨励がある。やっと宮前区に菅生地区の生涯スポーツ団体が立ち上がった。	せっかくスポーツセンターができたが、スポーツセンターは入札で簡単にスタッフが代わる。文科省が進めている生涯学習のスポーツ要素を誰でも受け入れるような立場の計画企画者が居座れない。安定的・長期的な教育環境・指導環境を整えてもらえればと思う	●有 【地域振興課】 指定管理の契約は5年			
	16	健康 (魅力)	浦野	坂道のまちづくり	第3期においては冊子製作の話までしかできなかったという印象。活用や健康づくりまで話を広げていくことができれば。	坂道マップの活用。区民の方々が坂に親しみをもち環境づくり。あわせて、それらの下地に必要は健康づくり、体力づくり。	●有 【企画課】 9月期にマップを作成予定 フロントレールから健康づくりの事業提案をしていただいている			
	18	子育て	岡	高齢者による学習支援	市内7区それぞれが区の特徴を出し、住民に住んでもらうことを考えなければならぬ。宮前区は30代・40代の若い層の転入出が激しいと言われているが、「教育レベルが高い」とも言われている。30代・40代のファミリー層に、「安心して教育が任せられる、住みよいまち」であることをPR。教育は短期間で成果が出るものではないが、「子育てに理解のあるまち」「児童を安心して預ける諸施策が充実しているまち」を前面に打ち出すことで転入が促進され、転出後も自分が育ったまち宮前区に帰ってくるということができよう。地域のお年寄りに協力依頼する支援策。	既にヤングママを対象に「悩み相談」、 「子育て支援」、両親共働きの方々には「わくわくブラザ」等が活動しています。が、これらのさらなる支援のため、地域のお年寄り(老人クラブ、子供のお相手が出る来る高齢者等)に働きかけ、子育て支援、学業支援の手助けをしてもらう地域ぐるみの人間形成型支援の実施。	●有 【こども支援室】 ●神原小…菅生地域教育会議(算数教室) ●向丘中学校・土橋小学校は学習支援で地域の方が既に入っている。シニア活用の学習支援は世代間の教育方針差があらわれ、教育委員会的にハードルが高いか? ●宮前平中などでは理系の親御さんが理科授業をするケースもある。⇒常設でなく個別の特別講座 ●宮前区は七区で一番児童(0から14歳)が多い			

分野	番号	ジャンル	提案者	課題	課題の概要	解決策・解決への取組	類似事業の有無 現在までの区などの取組状況概要	優先度	緊急性・必要性	実現性	備考
宮前区ブランド創造 続き	19	子育て	大槻	家庭教育支援 (学力以外の 教育支援)	子どもを取り巻く環境は核家族化・孤立化・共稼ぎが進み、社会全体で家庭教育支援が必要。この観点から地域による親の家庭教育支援や子どもへの家庭教育支援が重要であり、新たな取り組みが必要。「わくわくプラザ」や「こども文化センター」では不十分。	異世代交流。「親育ち・子ども支援地域」コミュニティ」構築。拠点は誰でも歩いている距離で。そこに行くこと誰かしら自分の興味を引く。すなわち地域の小学校。親の持っているスキル・体験を通じて。未就学児の親へも対応。学校支援センターとも連携。(地域人材・シニア人材)	●有 【こども支援室】 ●不登校児などをサポートすることもサポート南野川がこれに近い。 ●老人こいの家とこども文化センターが併設されていないところの方が世代間交流ができていいるという話もある(菅生こぶん)				
	20	生涯学習	大村	定年後の生きがい探し	①ポスト三川崎都民②団塊世代の増加③シニア世代の活性化	①生涯学習の充実②ボランティア活動への参加③高齢者大学の創設④シニアよろず相談の利用促進	●有 【市民館・企画課】 地域活動入門編・実践編と毎年講座を開催している。生涯学習財団関係でかわさき市民アカデミーがある。				
	21	自然	黒沢 岡 平井	花と緑 (ポイ捨て)	花とみどりのまちづくり、四季折々気持ちの良い散歩道づくり。緑化活動団体を集めイベントを開催。マンシヨンにも緑地の確保ができるような対策。	◎花・鉢物等の配布 ◎公共の場にごみを捨てないことが重要 ◎区民にその旨を絶えず広報する ・「緑化週間」、「地域での花祭り」「区内祭」等における、花の展示即売、花に関する講習会の実施。 ・「緑化運動」に取り組んでいる団体の区内表彰。(活動されている団体の励みにもなる)	【地域振興課】 ・花とみどりの事業で花苗支援イベントにより各団体において苗販売を行っているところもある 【環境推進課】 ポイ捨て、過剰の資材は無し。路上喫煙とともにキャンペーン 【企画課 安河内さんに相談】 マンシヨンについて。 一定規模以上の建築や開発行為については法律または市が定める条例で公園緑地の設置や敷地内緑化を行うことになっている。				
	26	農業	岡 大槻	農産物産地 消の推進	宮前区まちづくり協議会で「農産物直売所マップ」が作られた。まちづくり協議会と連動して地産地消を強力に推進出来ないものか。目的は、地域の住民に①区内にも元気な農家があることの紹介②地産地消を勤めることで地域住民と農業従事者のWinWinの関係構築する。最終目的は、区内の住民に宮前区は生活しやすいor暮らしやすいまちであることのPRや認知度アップをはかること。野菜類高騰の折、住民、生産者双方にメリットが期待出来るものと考えます。	●年2回(春・秋)に区内生産者一堂に集ってもらう、展示販売会(収穫祭)を実施。 ●出展生産者ブースを設け、自作の生産物を展示販売。●農産物直売所マップの配布。家庭菜園の作り方講習。採れた野菜での料理教室等々。●展示会の場所は北部市場、JAセレサ川崎、宮前区役所広場、宮崎台公園etc・・・。	【地域振興課】 【経】農業振興課 ・直売所マップ提示 ・JAが向丘地区、宮前地区でそれぞれ開催している。年に1回市とJANで展示即売会。昨年は宮前。 ・教室は農業振興課の市民農園 【宮前市民館】 ・野菜の料理はC級グルメ				
	27	産業	宮崎 大槻 佐々木	●起業家塾 ●大学連携 ●市場産業活性化	地域経済の繁栄は産業の振興を常に実践することと云われている。多様かつ発展性に富んだベンチャー企業や、将来を囁望される多岐な中小企業の出現を願っている。将来の人口減に対応するためにも、地場産業の発展により働ける場所をつくること求められる。中堅企業の活性化。	●小学校、中学校における課外活動の一環として区在住の企業家OD等による起業家塾の実現が望まれる●宮前区の大学や近郊大学と中堅企業を連携させ、イノベーションをはかる●サービス等、特に小さな規模でも成り立つような産業をつなぐことにより、活性化をはかる。	【商業観光課】 対象は小・中学校ではないが、商人デパート一帯などの講座は開催している。空き店舗活用支援なども				
29	魅力	宮崎	観光大使、親善大使の組織化の提案	宮前区の特徴、存在などを地球規模にて発信するため、宮前区とゆかりのある県外、海外在住者を組織化して生活の中での宮前区のPR役を担う。年に数回頻度、レポート提出も行う。この得られた情報をどのように活用するかなども検討したい。	【地域振興課・観光協会】 少し色は運つが、30周年関係でゆかりのある有名人とのコネクションはできてきつある。						

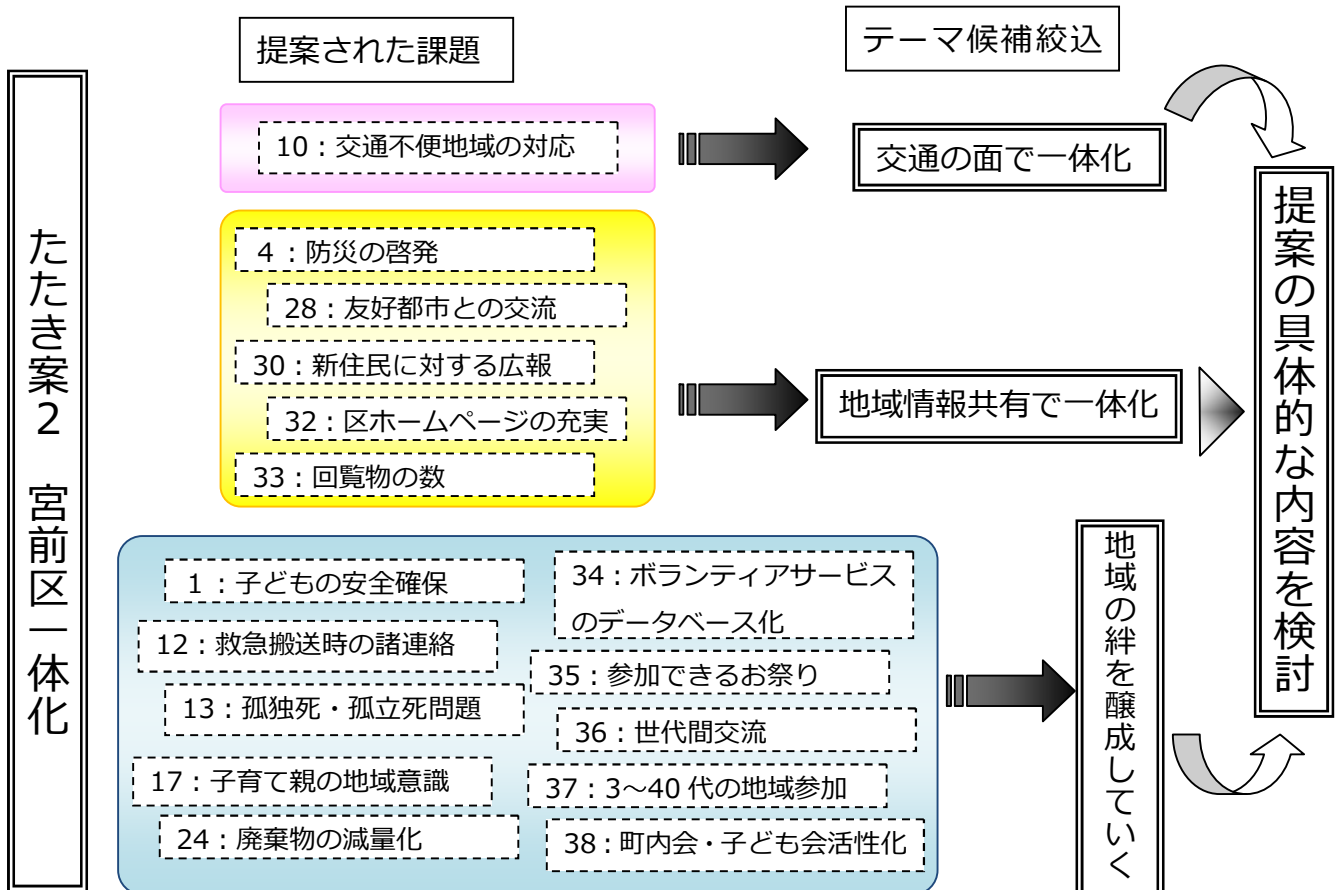
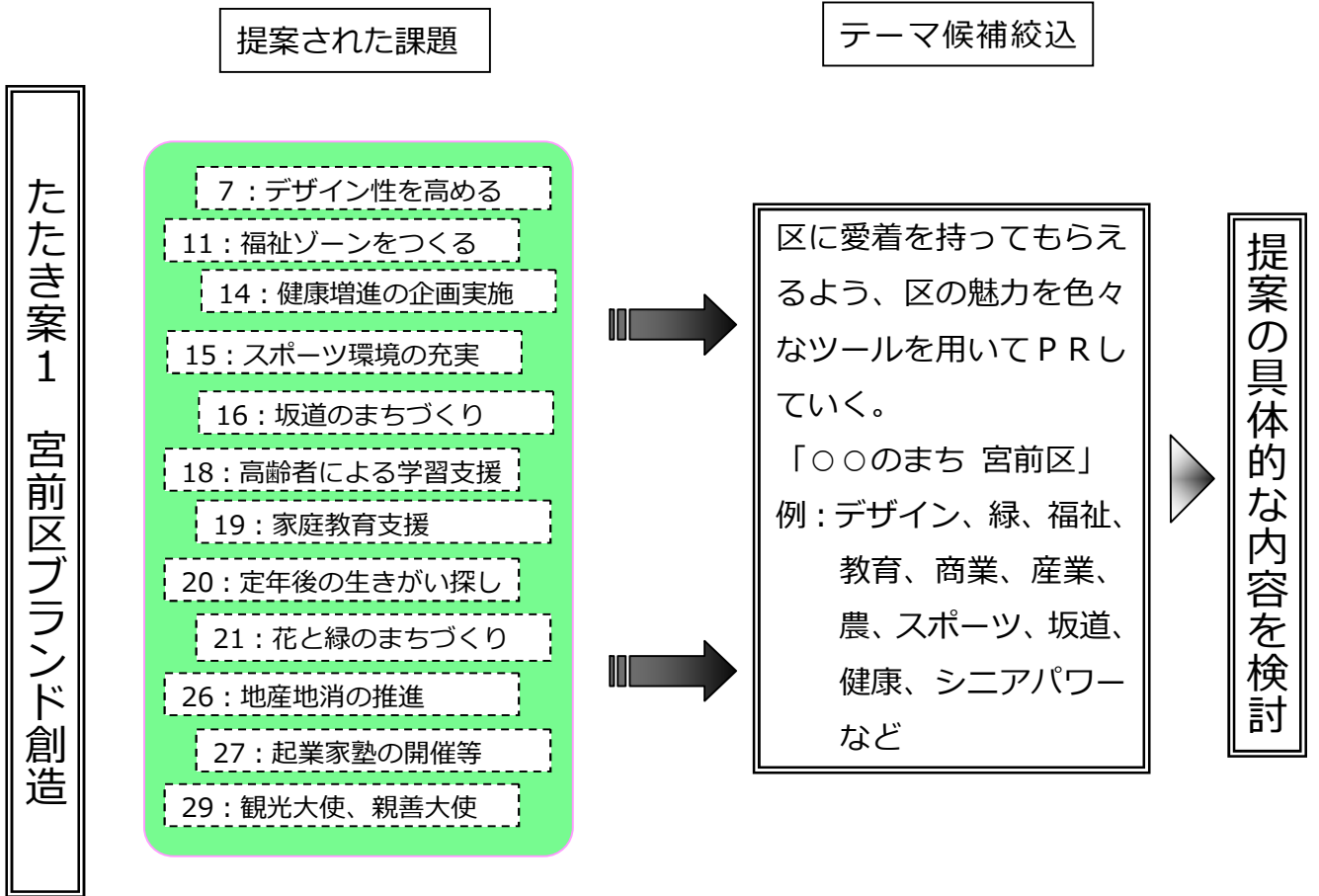
分野	番号	ジャンル	提案者	課題	課題の概要	解決策・解決への取組	類似事業の有無 現在までの区などの取組状況概要	優先度	緊急性・必要性	実現性	備考
一体化： 交通	10	交通	直本 藤田 山下	交通不便地域の対応	交通網の整備あるいは交通不便な地域に住んでい る方の足の確保。公共施設への足が不便。(初 山・有馬・五所塚など)田園都市線・東名高速で 東西分断。区内一体感に問題あり。	近隣相互の協力、地域支援。バス・タク シーなどの乗り物の整備。コミュニティーバ スの導入。公共施設へのバス路線。都市計 画道路未整備部分の整備促進					
	4	防災 (工コ?福 社?)	黒沢	防災の啓発	地震等災害に備える。避難路・場所の確認。区民 各自3日分の水・食糧等を備蓄する。	ヘルメット・ライト・ラジオ等の用意。 ・防災フェアの開催、会場に行く足の確 保。市バスの乗り継ぎがでないか? より多くの参加者が増える様努力する。	●有 【危機管理担当】 各家庭の備蓄については防災 ニュース等で啓発。フェアは今年か ら土曜日開催(3月9日)にすること で啓発効果増を見込む。防災推進 員現在161名 【地域振興課】 区民祭りの物産招致。りんご フェア普及やカラオケりんご。夏 の交流キャンプ。27名(定員40)				
	28	魅力	黒沢	友好都市との 交流	例年通り佐久市との交流を続ける		【地域振興課】 8月、小学生向けに区内の名所を まわるスタンプラリーを実施。				
	30	魅力	佐々木	新住民に対す る地域の広報	特に「宮前都民」と呼ばれる、普段は宮前区書で 仕事や活動をしている新住民に、地元にごんち のがあるのか知ってもらい、ひいては地域への愛 着の醸成と定住化を図る。	例えば「宮前マラソン」等の市民マラソン を行い、順位を競うのではなく、宮前区内 で知ってほしい場所などを通過ポイントと して設置し、同時にその場所の広報などを 行う。 ・フェイスブックの利用 ・掲載情報の充実 ・無料パソコン教室の開催(インターネット 利用者を増やすため)	【企画課】 10月に区HP一新。 【市民館】 アリーナに15台PCがあり、無料の 教室を実施している。市民館には win98が10台あり、教室開催も可 能。				
	32	区役所サービ ス	黒沢	区役所ホーム ページの充実	広報誌だけでは足りないので、インターネットに よる情報発信を充実させる必要がある。		【企画課】 一括配送				
	33	区役所サービ ス	平井	多すぎる回覧 物	多すぎる、情報の統一化						
	1	防犯	平井	子どもの安全 確保。夜間の 防犯の矛盾点	見守りのパトロールがあるが、子どもたちは警戒 しすぎて地域での気軽な挨拶ができない。学校が あまりにも閉鎖されている面もある。	病気・薬・連絡先等の覚書を冷蔵庫に。共 通のルールをつくる	現在所管なし 東京都大田区で実践している旨は 把握(高齢者支援課)				
	12	地域福祉	大槻	救急搬送時の 諸連絡	一人暮らしの老人						
	13	地域福祉	太田 福田	孤独死・孤立 死問題	宮前区は人の入れ替わりの早いところのため、お 互いに交流のないままま過ごしている。隣近所の交 流のある地域を目指したい。地域の絆をお互いに 自覚するように。	地域でのイベントを考える、または集まれ る場を設立し、定期的に開く。町内会を中 心に老人会・社会福祉協議会・民生委員等 が連携し行政と一体になって見守りの組織 作りに取り組んだらどうか。	●有 【地域保健福祉・企画】 23年度から見守り事業を実施。高 齢化が進む公営住宅2箇所を子 ル地区として住民同士の見え る関係づくりを進め、地域主体の見 守り活動や居場所づくりにつなげる ための取組を町内会・老人会・民 生委員等と連携し実施している。25 年度は王子ル地区を3地区に拡 大。26年度以降は町内会・自治会 へ見守り事業を積極的に紹介し、 事業を推進していく予定。				
	17	子育て	田浪	子育て親の地 域意識醸成	宮前区は子育てグループが多く若いお母さん達が 積極的に地域活動に参加してくれている。しか し、こどもの手が離れてくると地域から遠ざかっ てしまう人も多い。	子育て時期に仲間作りだけでなく、地域で 自分自身を生かそうという意識を持っても らえるような講座・講習会を開催するなど 考えられる。	【子ども支援室】 子育て⇒他の地域活動への声か けは無いが、子育て事業の次の担 い手として活動してもらえないも ちがけしている。地域に馴染まないも ち因として働きに出ているというの も考えられる。				

一体化：情報

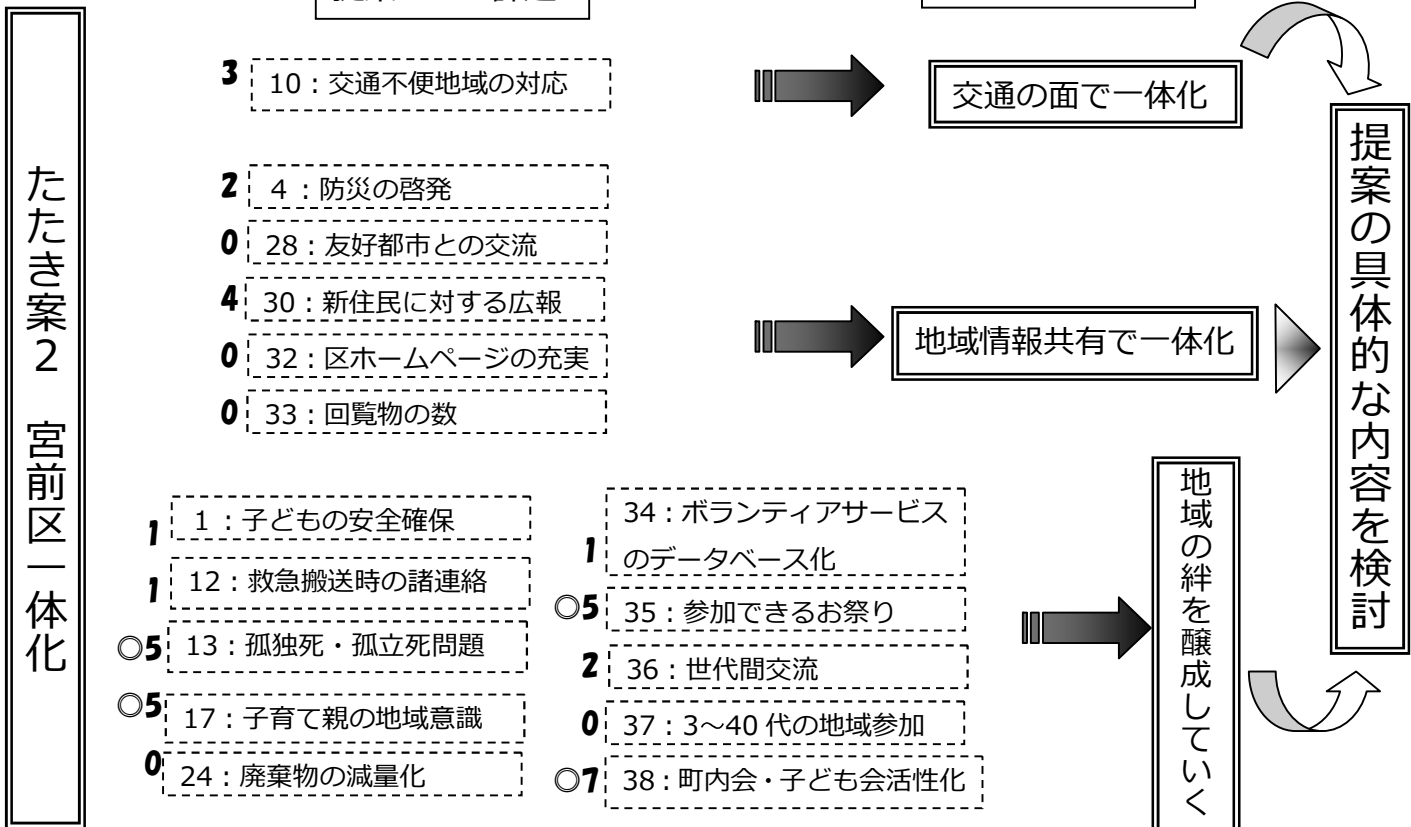
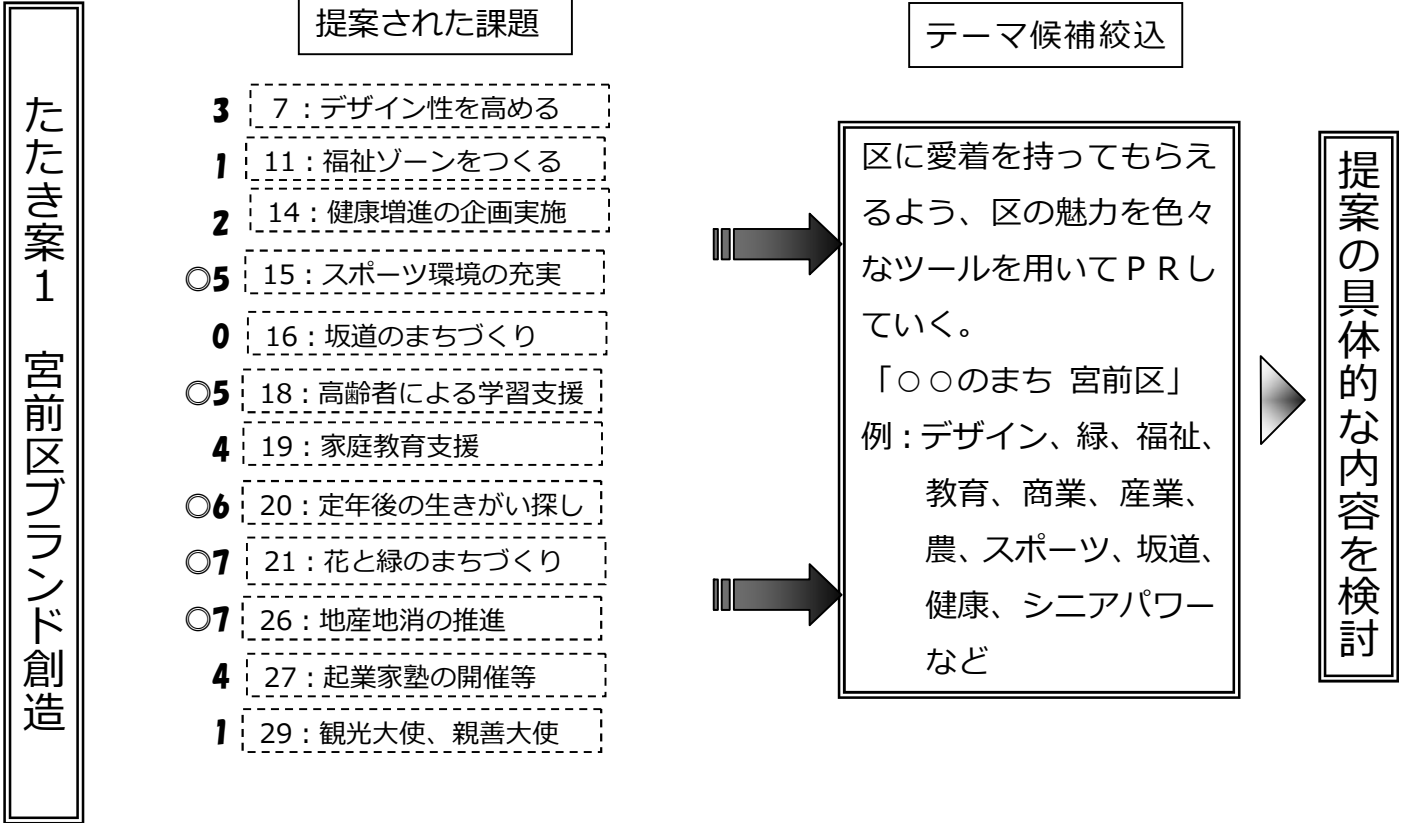
宮前区一体化

分野	番号	ジャンル	提案者	課題	課題の概要	解決策・解決への取組	類似事業の有無 現在までの区などの取組状況概要	優先度	緊急性・必要性	実現性	備考
宮前区一体化 続き	24	エコ	福田	廃棄物の減量化	普通ごみについて一般住民の関心が無さ過ぎるよ うな気がする。減量化についてまちぐるみで取り 組んだらどうか。	一般住民はごみは無料で捨てられると思っ ている。廃棄物には処理費用に相当な税金 が使われていることや分別収集のことをP Rし、啓蒙してはどうか	●有 【減量推進課】 ふれあい出張講座(町内会等の希 望により)、出前ごみスクール(小 学4年)、学校への副読本提供(小 学4年)、等で啓発活動。				
	34	地域コミュニティ	大槻	地域サービスのネットによる検索	宮前区は転入者が多いので各種のサービスを容易 に見つけ出せるように。ボランティアの人々も登 録してもらおう。	公的サービス以外のボランティア的な安易 なサービスをネットで検索できるシステム 作り。	【企画課】市民活動的に地域振興 市民活動団体の紹介は「みやまえ のHPで。緑園隊では公園緑地協 会がボランティアスタッフ登録の制 度もある。				
	35	地域コミュニティ	藤田	みんなが参加できるお祭り	みんなが参加できる祭りが少ない。(区民祭・ふ れあいフェスタ)参加のみでなく、手伝いできる 体制をつくる。まちづくりへ積極的に手伝いし ている人がまだ少ない。	必ずしも大きな祭りだけでなくもよい。小さ な祭りの積み重ね(例:盆踊り)区内での 共通意識が持てるもの。ウォーキング大会 なども考えられる。					
	36	地域コミュニティ	田浪	世代間交流	世代間交流 世代間交流 世代間交流	既にあるかむクラスで民生委員さんと子 育て中のお母さん達との交流など、気軽に 交流できるようなネットワーク作り。ボラ ンティアグループなど特定の目的を持った 団体を經由して交流を深めることもできな いか。	【子ども支援室】 青少年も文化センターの例など。 水沢森人の会やのがわはあもなど それぞれレベルでは交流が ある。				
	37	地域コミュニティ	田浪	「地域」意識の向上…3～40代	時間が無くもともと生活に追われる30～40歳代 の人たちに地域の大切さを意識してもらいたい	「楽しい」「お得な」「葉できる」などを キーワードに地域に参加するきっかけづく りをする。商店街とのタイアップ企画な ど。	【企画課】 地域参加をうながす→ 情報サポーターズの冊子?				
38	地域コミュニティ	平井 山下 直本	地域の町内会。子ども会の加入率の減少	転入・転出が多く、また、一人暮らし世帯も増え ている。地域で、お互い助け合いのできる触れ合 いのあるまちづくり。子どもたちに、良いふるさ とづくり。町内会、子ども会の魅力ある活動の工 夫と情報交換。新住民の地域に対する意識が低 い。	・町内会、自治会の統一の指針を作成す る。好事例を紹介する。防災対策を前面に 出す。(今回の委員は自治会関係者が多 い)	【地域振興課】 区の加入率65.1%。市は65.4%。転 入者向けに訪問をしている委もあ る。宅建協会に赴き、住宅販売の 際に町会加入もセットに入れるよう 仕組をつくっている。宮前地区は今 年記念誌を発行する→PR。多摩 区ではのほりやボスターを製作し 加入促進のPR。					
その他	2	防犯	平井	駅前には交番を	宮崎台駅前交番がない。防犯安全確保のための、 交番をふやす。						解決策の提案が県へ の要望にとどまるもの
その他	3	防災 (工コ?福 社?)	大槻	災害に強い地域の表現	電力不足対応。災害時の病院・葉の対応。 津波なし、溢水、木密地 域少ない。したがって、各家庭での対応、備蓄倉 庫、帰宅困難者などが主眼	①太陽光発電パネルを公共施設・森林・川 岸等に設置→売電②病院・葉局データを電 子化し、クラウド化③災害時の緊急物流対 応	●一部有 【総務課・市民館】 ①区役所・アリーナにはパネル設置 済 ②【所管なし】 【危機管理担当】 ③計画作成中				①順次実施中 ②民間事業者が医療 機関向け販賣中 ③区防災計画作成中
その他	5	防災 (工コ?福 社?)	山下	防災の指針作成	宮前区での防災の特徴。津波なし、溢水、木密地 域少ない。したがって、各家庭での対応、備蓄倉 庫、帰宅困難者などが主眼	区としての防災指針。または対策立案。	●有 【危機管理担当】 現在作成中				現在、区の地域防災計 画を見直している

分野	番号	ジャンル	提案者	課題	課題の概要	解決策・解決への取組	類似事業の有無 現在までの区などの取組状況概要	優先度	緊急性・必要性	実現性	備考
その他	6	住環境	芒崎	トンネルの清掃	通学路でもある梶ヶ谷の尻手黒川道路につながるトンネル内がはとの糞等で汚れが目立ち、不衛生。安心して気持ちよく通れるように。	地域住民の協力。どのように清掃を行うか、清掃用具等にかかる費用はどのようにするか。相談をしながら実行できれば。	●有 【危機管理担当】 (H19年)第2梶ヶ谷トンネルアート製作。照明設備の増設(H20年)第3梶ヶ谷トンネルアート製作(H21年以降)毎年補修。鳩はJRとの調整も必要				毎年10万程度、トンネル補修費用が計上されている
その他	8	住環境	本郷	ラブホテル建設	川崎ICにおいて清水台方面に向かう処、旧道路公園事務所横の空き地にラブホテル建設のうわさあり	うわさを確認して本当なら阻止の動きにつなげたい					現時点では建設の可能性が低いことがわかった
その他	9	交通	佐藤	危険道路。通学児童の安全確保。	柳原小学校児童の登校の場合 道幅：4m(側溝55cm含む) 距離：115m(車道・歩道の区別なし) 時間帯交通量：児童55名、自動車40台、バイク10数台	3名にて見張りを行っているが、どう指導すれば安全に通学できるか。	●有 【危機管理担当】 上下線に啓発看板を設置 【道路公園センター・警察】 目立つ白線を敷設。注意喚起				当該箇所のみ課題としては所管課が対応中
その他	22	自然	本郷	平瀬川の水質	地下水路を通じて月に3回ほど汚水が流入している。発生を追及し、やめさせたい。	地下水路の要所にのぞき窓を設け、市民が確認できるようにしてほしい。	【糞】環境対策課 近隣住民や事業所に啓発リーフレットを配布。「汚水等があれば相談ください」という連絡の案内も入っている。				関係局への要望にとまる
その他	23	公園	白井	土橋7丁目公園トイレについて	公園にトイレが無いということで不便を感じる人が多い。老人会主催のバスも発着するので、ぜひとの声があります。						関係局への要望にとまる
その他	25	農業	大槻	農家の育成	・分散農地の効率化	①分散農地にセンサーを設置し、環境を集中管理して効率化をはかる					関係局・機関への要望にとまる
その他	31	魅力	山下	「ハコモノ」または「競技場」の建設	川崎は「おんがくのまち」と言いながら宮前区内にはしかるべき建造物が無い。また、大会を開催できるような競技場が無い。	適当な用地の発掘・確保が必要					要望にとまる
その他	39		平井	1期2期3期に行った提言の、見守りと、検討	せっかく3期にわたって色々提言しているのに、それを振り返ってみるのが大切だと思います。3期に提言してた情報サポーター、坂道のことも続けていきたい。						区民会議での取り扱いが他とは異なる



- ・課題番号の左の数字が獲得票数
- ・◎がついているものが第2回準備部会の議事にのせる課題



【9つの地域課題に対する区の取組】

番号	課題	区計画 (該当の無いものは市計画)	市や区の課題解決の枠組	具体的な取組状況について情報提供 ●または類似の事業・他自治体や民間での取組など	情報提供課
1	スポーツの推進	⑥ スポーツと健康のまちづくり	1、宮前区スポーツ振興指針 (宮前区魅力あるスポーツ推進事業) 2、地域総合型スポーツクラブの設立・育成支援 (宮前区魅力あるスポーツ推進事業) 3、宮前スポーツセンターを視点とした室内スポーツの振興 (宮前区魅力あるスポーツ推進事業) 4、フロンタウンささぬまとの連携 (宮前区魅力あるスポーツ推進事業)	<ul style="list-style-type: none"> ●平成24年3月 国の基本計画策定 現在、川崎市スポーツ推進計画策定準備中（7月からパブリックコメントを受け付ける） 川崎市の計画が策定されてから、宮前区としての指針を検討予定 ●平成24年4月に正式に設立された。設立まで2年間は設立準備委員会として、菅生、神原小教諭を中心に運営。設立後は各小のPTA関係者を中心に運営している。現在の会員数は約130名、種目は体育教室、スポーツチャランバラ、フットサル、キッドピククス、フレッジフットボール、身体塾。現在宮前区の他地域で総合型スポーツクラブを立ち上げる予定はない。 ●教室は16種目（卓球、バドミントン、フットサル、各種体操、ヨガ、ピラティス、太極拳等）昨年度の参加者合計2万人。 ●個人開放しているスポーツデーは・1回200円で利用でき、8種目（卓球・バドミントン・体操・太極拳・エアロピククス等）で年間24,000人が利用。 ●連携協定は26年3月31日まで ●東名花壇での花植えへの参加 ●介護予防事業としてグラウンドゴルフピクサー教室の実施 ●地域課題対応事業として坂道らくらくウォーキング教室の実施 ●区誕生30周年記念グラウンドゴルフ大会・ポールウォーキング観戦ツアーの実施 ●区役所に連携協定PRコーナーを常設 ●健康づくり推進会議で健康づくり情報誌「健やかライフ宮前」を1万部作成。内容は区民の健康づくりの活動紹介や健康的な生活習慣作りについての情報を掲載している。配布場所は保健福祉センターで実施している健診や事業のほか、区内公共施設や地区活動グループ、町内会、自治会、民生委員等。今年度は、高齢者向けの健康づくり情報誌を作成する予定。 ●公園体操マップは、平成23年12月に改訂、3千部発行し、区役所等区内4か所や包括支援センター等で配布した。公園体操は平成24年4月現在区内4か所で開催されており、毎日開催から月1回開催のところまでであり、参加者は平成23年度は約1,000名程度。今年度も開催団体・場所の普及促進を行っている。 ●スポーツ指導者の育成（フロンタウンにて少年サッカー指導者講習会の実施） ●スポーツ推進委員会（女子バレーボール、ソフトボール、ジュニアフットサル、ドッジビー大会、歩こう会の実施） ●トリアスリート（ふれあいスポーツフェスティバルで宮前区在住トリアスリートに区民が直接教えてもらえる事業を実施予定） 	<p>(宮) 地域振興課</p> <p>(宮) 地域振興課</p> <p>(宮) 地域振興課</p> <p>(宮) 地域振興課 (宮) 企画課</p> <p>(宮) 地域保健福祉課</p> <p>(宮) 地域保健福祉課</p> <p>(宮) 地域振興課</p>
			5、健康づくりに関する情報提供 (健康づくり支援事業)		
			6、公園体操マップの発行 (健康づくり支援事業)		
			7、その他		

番号	課題	区計画 (該当の無いものは市計画)	市や区の課題解決の枠組	具体的な取組状況について情報提供 ●または類似の事業・他自治体や民間での取組など	情報提供課
2	花・緑・川など身近な環境	市然計画：無(該当のもの)市計画：基本政策Ⅳまちづくり環境まち(環境まち)	1、地域緑化推進地区や緑化団体への花苗の提供(花と緑のあふれる住みよいまちづくり事業) 2、緑化推進団体間のネットワーク構築に向けた勉強会の開催(花と緑のあふれる住みよいまちづくり事業) 3、その他	●区内の公園、公有地内にある花壇を自主管理している緑化活動団体(20団体程度)に対し、中間支援機能を有するまちづくり協議会と連携し、年1回(秋頃)花苗等を提供している。 ●川崎市公園緑地協会と連携して、東名川崎インターチェンジ周辺を含んだ地域緑化推進地区内の地域緑化推進計画に基づいた住民発意による自主的な緑化活動の緑化を促進している。年2回(6月、11月)、枯苗の撤去及び新しい苗への植え替え作業をそれぞれ行っている。	宮) 地域振興課 宮) 地域振興課 宮) 道路公園センター
3	農産物地産地消の推進	市計画：基本政策Ⅴ(地域活力にあふれる躍)まちづくり(地域資源活用事業)	1、農産物直売所マップ作成印刷(地域の魅力発信事業) 2、その他	●農産物直売所マップ&ガイドを平成24年2月に12,500部作成し、区役所や区内各施設において配布することで、区民に宮前区の農産物や直売所等の情報提供を行っている。また、そのガイド&マップを活用した、まちづくり協議会主催のウォークイベントを年2回程度開催している。農家の方から農作物や栽培方法の説明を受け、農業に対する知識や認識を高めてもらうとともに、農家の方や参加者同士の交流を深めていく。応募25名のところ、受付開始後数時間で定員に達するなど、人気のイベントとなっている。 ●農産物直売所マップの活用を踏まえ、C級ブルームコンテストを開催、24年度は30周年事業とも連携をはかり、プロ部門の開催や30周年記念賞品などの活用により、市民への周知を行った。 ●シニアの社会参加支援事業により「農業応援ボランティア」の講座を開催。現在は、講師を務めていただいた小川農園にて活動中。小川農園では、近隣小学校の食農体験の受け入れなどもしているため、その際の支援なども行っている。今後の活動としては、活動が安定してくれば農協や農業振興センターなどを通じ、人手で困っている農家の支援なども視野にいれ活動している。	宮) 地域振興課 宮) 生涯学習支援課
4	区民主体のお祭り	市計画：Ⅶ(参加と協働による市民自治の推進)まちづくり(地域コミュニケーション活性化推進事業)	1、世代間の交流と多様な市民の交流を図る(多様な主体の社会参加推進事業) 2、その他	●あそびランドは各コーナーの準備・運営に関しては参加団体にお願いをされているので、企画委員や職員は、その受付処理と各団体同士の調整、当日の運営をメインに行っている ●多様な主体の参加となるよう、委員には地域の情報提供をしてもらっている。 ●文化魂については、今年で3年目となるが、企画委員が15名、参加予定団体が12団体、約100名となっている。来場者においても、第1回は約500人、第2回は約650人となっている。 ●みやまえJAMにおいては、自主運営により、2日間の開催。舞台の振興や打ち合わせ、チラシの制作配布なども自主的にしている。 ●みやまえ子育てフェスタは宮前区で活動している子育てサークルや子育てを応援する団体の交流が目的で始まり、今年度は11年目を迎える。 ●乳幼児のいる親たちへの情報発信と交流の場としての認知度も上がり、宮前のお祭りとして定着してきた。 平成23年11月26日(土) 10:00~14:00 暴風雨の中 来場者850名 平成24年10月27日(土) 10:00~15:00 予定	宮) 生涯学習支援課 宮) 生涯学習支援課

番号	課題	区計画 (該当の無いものは市計画)	市や区の課題解決の枠組	具体的な取組状況について情報提供 ●または類似の事業・他自治体や民間での取組など	情報提供課
5	町の活性化 の町内会・自治会・子ども会	市計画の計画：Ⅶ参加と協働による市民目 的化推進事業（地域コミュニティ）	●区計画に該当する事業の位置づけは無い 1、その他	●宮前区の加入率65.1%。市は65.4%。転入者に訪問をしている会もある。宅建協会に付き、住宅販売の際に町会加入もセットにする仕組をつくっている。宮前地区には23年度記念誌を発行する。多摩区ではのぼりやポスターを製作し加入促進のPR。地区町連の50周年を契機とした記念誌の刊行を行う。記念誌の製作を一過性のものとしないうえ、町会への加入促進ツールとして活用することができよう検討を行い、地区町連のみならず区町連全体で実現に向けて取り組みを行う。その中で、区町連のホームページを有効活用することができよう、併せて検討を行う。	宮) 地域振興課
6	子育て親の地域意識醸成	① 子ども・子育て支援の推進	1、親と子の子育て応援セミナーの開催 (親と子の子育て応援セミナー開催事業) 2、その他 ・子育て支援拠点の整備(…子ども支援室) ・親子学級の開催(…生涯学習支援課)	●親と子の子育て応援セミナーの参加者を対象にセミナーで学んだことや仲間を活かして次の世代につないでいけるように、「100会」を年1回開催している。先輩ママとして翌年度のセミナーにかかわってもらおうようにしている。 ●子育て自主グループの交流会を行い、自主グループの運営等について情報交換等を行っている。 ●子どもサポーター南野川・向丘出張所・区役所を子育て支援の視点とすべく、キッズコーナーの整備、情報コーナーの充実等を行っている、特に24年度は向丘周辺地域の子育て支援について拡充していく予定である。 ●親子学級は、全15回の講座をとおし、親は親同士、子は子同士がかかわりを持つことで様々なことを学ぶ。毎年、前年度の受講者の中から数人が企画委員に加わり、受講者のみがかかわりではなく、地域参加のきっかけともなっている。	宮) こども支援室 宮) こども支援室 宮) 生涯学習支援課
7	子どもの教育を支援	① 子ども・子育て支援の推進	1、不登校児などの居場所づくり (子ども包括支援事業) 2、その他 ・冒険遊び場活動支援事業(…子ども支援室) ・子どもたちに伝えたいこと、体験させたいことをテーマに小学校 3.4年生を対象に「理科で遊ぼう」「飛森谷戸自然探検隊」を開催。 (…子ども支援室) ・子育てに関する家庭・地域課題の学習機会を提供すると共に、市民館保育を併設することで保育を必要とする世代にも配慮する。(…生涯学習支援課)	●H21.5月から南野川小学校第4校舎を借りて、0歳から18歳までの子どもを対象に子育てサロンやフリースペースの提供をする子育て支援と不登校など課題を持つ子どもも居場所づくり、学習・生活支援を行う、子ども支援を、週4回行っている。地域への認知も広がり、利用者が増加している ●H24年度は新たな登録団体が増え3つの団体が登録し、身近な公園で月1回程度活動を行っている。そのほかシンポジウムや講演会、区民祭と同時に行う出張冒険遊び場や「冒険遊び場づくり講座」も実施予定である。 ●保育併設の講座数：8講座(全90回) 子ども延べ参加数：571名 (…生涯学習支援課)	宮) こども支援室 宮) こども支援室 宮) 生涯学習支援課

番号	課題	区計画 (該当の無いものは市計画)	市や区の課題解決の枠組	具体的な取組状況について情報提供 ●または類似の事業・他自治体や民間での取組など	情報提供課
8	定年後の生きがい探し	⑤ 地域活性化に向けたコミュニティづくり(地域コミュニティ活性化推進事業)	1、地域人材育成指針の策定 (地域活動の促進に向けた人材育成及び推進体制の整備事業) 2、生涯学習推進会議作業部会における情報共有と意見交換 (地域活動の促進に向けた人材育成及び推進体制の整備事業) 3、連携モデル事業の実施・検証 (地域活動の促進に向けた人材育成及び推進体制の整備事業) 4、シニアライフ相談窓口の開設 (シニアライフ支援事業) 5、その他 ・シニアの社会参加支援事業の実施 ・「子ども・子育て応援ボランティア講座」の開催	●川崎市では、初めてとなる地域人材の育成という観点から、学習課題(学び)と行政課題(実践)の連携のあり方のその方策等を示した「宮前区地域人材育成に関わる基本指針」を策定した。 ●情報サポーターズ講座の開設、地域健康づくり推進事業の実施 ●平成24年度は、区民会議で提案された地域コミュニティへの参加を促す冊子の作成という事業に向けた人材を育成していく「宮前区情報サポーターズ養成講座」を指針を踏まえて開催する。講座は、全15回で「雑誌とまちづくり」、「ブロの取材活動を見学」、「新しい時代の情報伝達方法」等を学習し、冊子作成終了後も視野に入れ講座を展開している。また、同様に指針を踏まえ、「高齢者健康づくりリリターター養成講座」を開催する予定である ●シニア世代の能力を地域で活かし、シニアの今後の人生設計や生きがいづくりをサポートするため、毎木曜の9:00~12:00に区役所2階ロビーで開催。地域デビューに関心を持つシニア世代の相談に対して、シニアアドバイザーが活動団体の紹介や助言を行っている。向丘出張所での出張相談も予定している。平成23年度は207人の利用者があった。 ●農業応援ボランティアの講座を行った。「シニアライフをいきいきと」講座の開設 ●事業概要：保健福祉センター及び市民館主催の子育て支援ボランティア・保育ボランティア要請講座の修了生を主な対象とする合同研修会を開催することにより区内の子育て子育て支援の一助とする。 平成24年2月2日~3月1日 全3回 他に施設見学あり 延べ参加者数：31名 第1回：子育て応援ボランティアするための基礎知識 第2回：子育て中の母親の気持ちを理解すると共に、母親に提供できる子育て情報の探し方を学ぶ 区内の子育てサポートの現場見学及びボランティア体験 第3回：地域での子育て支援について考えると共に親との関係づくりのポイントを学ぶ	(宮)生涯学習支援課 (宮)生涯学習支援課 (宮)生涯学習支援課 (宮)企画課 (宮)企画課
9	孤独死・孤立死問題	② 高齢者の見守りの促進	1、高齢者見守りのモデル事業の実施 (地域が主体となった高齢者の見守り促進事業) 2、その他	●高齢化が進む公営住宅2か所(モデル地区)で、23年度に「公営住宅に関わる高齢者等実態調査」「ワーキング」を実施し、地域の見守りのしくみが大切との意見をいただきました。それを受けて24年度は、モデル地区2か所の住民ニーズや実施団体の意向に合わせた活動への支援を実施しています。①交流活動を通じた見守り支援(健康、福祉出前相談等)②見守り活動支援(緊急時カード登録等)③見守り人材育成(見守り推進員の養成等)最終的には地域主体の見守り活動の充実・発展と地域コミュニティの活性化を図ります。	(宮)地域保健福祉課

7月10日でのテーマ分類結果

テーマ①…環境を活かした人づくり

1、スポーツの推進

スポーツ指導者の養成、スポーツセンター指定管理契約、健康の増進

2、花・緑・川など身近な環境

四季の散歩道、緑化団体のイベント、花の配布、ポイ捨て禁止、花に関する講習会、緑化団体の区内表彰

4、区民主体のお祭り

参加のみでなく手伝いできるイベント、まちづくりへの積極的な関与、ウォーキング大会の実施

テーマ②…地域間・世代間の交流を深める

5、町内会・自治会・こども会の活性化

助け合いができるまち、こどもたちのふるさとづくり、子ども会活動の工夫、町内会・自治会の好事例を紹介、防災対策などもPR

6、子育て親の地域意識醸成

子育てグループメンバーの囲い込み、子育ての仲間づくりから地域の仲間づくりへ、自己実現につながる講座・講習の開催

7、こどもの教育を支援（学力・家庭教育）

ボランティアによる学習支援、宮前は「教育の区」というイメージの発信、こどもの居場所、家庭教育支援、様々なスキルを通しての世代間交流

8、定年後の生きがい探し

高齢者のボランティア活動への参加、生涯学習の充実、よろずシニア相談の充実

9、孤独死・孤立死問題

高齢者の居場所づくり、隣近所の交流ある地域づくり、救急搬送時の諸連絡
町内会・民生委員・行政の連携による見守り組織

3、農産物地産地消の推進

直売所マップ活用、展示即売イベントの実施、家庭菜園講習、宮前野菜の料理教室

今期は
取りあげない